872C609B10

MITSUBISHI ELECTRIC

EV 用パワーコンディショナ「SMART V2H ※」
形名

※電気自動車（EV：Electric Vehicle）の蓄電池に蓄えた電気を家庭に供給すること（Vehicle to Home）

EVP-SS60A-M5（充電ケーブル 5.5m ダブル発電適用）
EVP-SS60A-M7（充電ケーブル 7.5m ダブル発電適用）
EVP-SS60A-Y5（充電ケーブル 5.5m）
EVP-SS60A-Y7（充電ケーブル 7.5m）

取扱説明書

お客様用

●正しく安全にお使いいただくためにこの取扱説明書をよくお読みください。
特に「安全のために必ず守ること」はご使用の前に必ずお読みください。
●取扱説明書はお使いになる方がいつでも見られるところに、保証書と共に保管して、必要なときにお役立てください。
●保証書は必ず「引き渡し日・販売店名」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。

お客様ご自身では据付けないでください
（安全や機能の確保ができません）

この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できません。また、日本国外ではアフターサービスもできません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
No servicing is available outside of Japan.

●この製品は作動中に運転音がします。運転音が気になる場所には据え付けないでください。また、各地区の騒音規制等に関する条例にしたがって設置してください。
●この製品には鉛蓄電池を搭載しております。鉛蓄電池を破棄する際は、当社サービスセンターが引き取らせていただきますので最寄のサービスセンターに連絡願います。

もくじ

ページ
安全のために必ず守ること 2-3
EV 用パワーコンディショナの特長 4-5
タイプ M、タイプ Y の違い 6
システム機器配置例 7
ご使用のまえに 8-9
各部のなまえとはたらき 10-18
使用前の準備 19-30
1. 初期設定 19-21
2. エコノミーモード設定 22-23
3. 充電スケジュール設定 24-26
4. EV 充電／ピークカット設定 27-30
使いかた 31-54
1. 車両に充電する 31-34
2. 自立運転する 35-36
3. いろいろな使い方 37-54
〔1〕エコノミーモード 37-38
〔2〕グリーンモード 39-40
〔3〕EV 予約充電モード 41-42
〔4〕売電最大運転 43-44
〔5〕余剰売電運転 45-46
〔6〕ピークカット運転 47-48
〔7〕買電最小運転 49-50
〔8〕詳細電力確認 51-52
〔9〕システム履歴 / 機器情報確認 53-54
お手入れと点検 55-57
地震発生時の注意 58
保証とアフターサービス 59
故障かな？と思ったら 60-65
製品仕様 66

安全のために必ず守ること

●電気配線工事は、第二種電気工事士の資格を有する販売店・工事店様が実施してください。
●火災・けが・感電のおそれがありますので、次の注意事項を必ず守って作業してください。
●据付工事部品は、必ず付属部品および指定の部品を使用してください。
当社指定部品を使用しないと、故障や事故の原因となります。
●お客様自身での工事は、故障や事故の原因になります。

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
注意	誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの

■“図記号”の意味は次のとおりです。

	禁止		水ぬれ禁止
	分解禁止		指示に従い必ず行う
	接触禁止		アース線接続

警告　誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止	**異常のままで放置しない** 万一、異臭、発煙があった場合は直ちに「非常停止ボタン」を押してお買い上げの販売店にご連絡ください。 火災、感電の原因になります。
	パワーコンディショナの内部、吸気口、排気口、コネクタに金属や水などの異物を入れない 火災、感電、故障の原因になります。
	パワーコンディショナのコネクタはＥＶ以外に接続しない 火災、感電の原因になります。
	コネクタの電極に触れない 感電、故障の原因になります。
	充電ケーブルを踏んだり、充電ケーブルの上に物を置かない 感電、火災、故障の原因になります。
	使用後、充電ケーブルを放置しない 感電、火災、けがの原因になります。
	子供だけでの使用はしない 感電、火災、やけどのおそれがあります。
	吸気口、排気口をふさがない 火災、やけど、故障の原因になります。
	心臓ペースメーカ、植え込み型除細動器（ＩＣＤ）を使用している方は運転中に製品に近づかない。製品を操作する必要がある場合は、他の方にお願いしてください 心臓ペースメーカ、ＩＣＤの動作に影響を与えるおそれがあります。
	医療機関には設置しない 身体の安全に影響を与えるおそれがあります。
	人口呼吸器、酸素濃縮装置などの医療電気機器を在宅医療に用いる住宅内での使用は禁止する 身体の安全に影響を与えるおそれがあります。
	パワーコンディショナの上に乗ったり、ぶらさがったり、もたれたりしない 感電、けがの原因になります。
	蹴飛ばしたり強い衝撃をあたえない 感電、火災のおそれがあります。
禁止	**可燃性ガスの近くに置かない** 火災のおそれがあります。
	コネクタを落下させない 感電、故障の原因になります。
	ケーブルを無理に引っ張らない 感電、故障の原因になります。
	夏に直射日光が当たっているときは手袋を着用する やけどの原因になります。
	コネクタを無理に引っ張らない 感電、故障の原因になります。
	蓄電池システムやディーゼル発電機など、他の発電システムと併設しない 火災、感電、故障の原因になります。
接触禁止	**パワーコンディショナの内部には手を触れない** 感電の原因になります。
	災害発生時や雷鳴時にはパワーコンディショナに触れない 感電、故障の原因になります。
	濡れた手でコネクタ、充電ケーブルを持たない 感電の原因になります。
分解禁止	**分解・改造は絶対に行なわない** 感電、火災、転倒の原因になります。
	お客様ご自身での分解点検は行わない 感電するおそれがあります。
指示に従い必ず行う	**お手入れの際は必ずパワーコンディショナ本体の「充放電停止」スイッチを押して運転を停止し、保守用ブレーカ、太陽光発電用ブレーカを「OFF」にして、車両からコネクタをはずす** 感電・火災の原因になります。
	コネクタを破損した場合は使用しない 火災、感電の原因になります。
アース線接続	**アース線の接続は確実に行う** 感電、火災の原因になります。

⚠ 注意　誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの

禁止

パワーコンディショナの上にはものを置かない
火災、感電、けがの原因になります。

パワーコンディショナに蒸気をあてない
露がつき漏電・焼損の原因になります。

パワーコンディショナを次のような場所では使用しない
・浴室
・洗面所や脱衣所の直接蒸気のかかる場所（浴室側扉の上部、洗面台の上部）など著しく湿度の高いところ（感電・漏電・焼損の原因になります）
・台所など油煙や蒸気を受けるところ（感電・漏電・焼損の原因になります）
・可燃性ガスなどが漏れるおそれのあるところ（製品周囲にたまると火災の原因になります）
・無線機など高周波機器があるところ（誤作動により焼損の原因になります）

パワーコンディショナ、充電ケーブル、コネクタ、リモコンの清掃には以下の薬品や油類・洗剤等を使用しない
シンナー・アルコール・ベンジン・ガソリン・灯油・スプレー・洗剤等
故障や変色・変質の原因になります。

車両との接続中は、充電ケーブルを踏んだり、充電ケーブルの上に物を置いたりしない
感電・火災・故障の原因となります。

使用後、車両を移動するときは、充電ケーブルを放置しない
感電・故障の原因となります。

地震後、漏電ブレーカがOFF（トリップ）した場合は、自立運転を行わない
短絡や漏電が起こり火災の原因になります。

接触禁止

運転中や停止直後にパワーコンディショナ上面をさわらない
高温のため、やけどをするおそれがあります。

真夏にコネクタを素手でさわらない
高温のため、やけどをするおそれがあります。

水ぬれ禁止

パワーコンディショナを水につけたり、水をかけたりしない
感電や故障の原因になります。

パワーコンディショナを高圧洗浄機で洗浄しない
感電や故障の原因になります。

指示に従い必ず行う

地震、洪水による被災の後は点検を受ける
電気配線に異常がある場合は、火災・感電・故障の原因になります。

お手入れの際は手袋を着用する
けがの原因になります。

充電ケーブルに足を引っ掛けないよう十分注意する
ケーブルが損傷し、火災や感電の原因となります。ケーブルで足をつまずき、けがをするおそれがあります。

必ず側面のケーブルフックに掛けて収納する
ケーブルで足をつまずき、けがをするおそれがあります。

地震、大雪後の点検を受ける
アンカーボルトの固定にゆるみや異常があるとパワーコンディショナが転倒してけがをする場合があります。また、電気配線に異常がある場合は、火災・感電・故障の原因になります。

パワーコンディショナをから拭きするときは手袋を着用する
着用しないとけがをすることがあります。

バッテリ（鉛蓄電池）は定期的（3.5年ごと）に交換する
劣化した蓄電池を長期間使用しますと、漏液等による火災の原因になることがあります。

コネクタに直射日光が当たっている時に、コネクタを操作する場合は手袋を着用する
やけどの原因になります。

■バッテリ（鉛蓄電池）に関する注意事項

●バッテリは水素ガスを発生することがあるため、火災の危険がありますので下記の項目を守ってください。
・バッテリの近くでたばこを吸わないでください。
・バッテリの近くで火気を使用しないでください。
・バッテリに触れる前に、接地された金属の表面をさわって、身体から静電気を放電してください。
●バッテリの発火時は、消火のために水を使用しないで、粉末（ABC）消火器を用いてください。水を使用すると、火災を拡大させる原因になることがあります。
●バッテリの中の電解液は、劇物の希硫酸です。バッテリのふたを開けたり分解しないでください。希硫酸が目に入ると失明、皮膚に付くとやけどのおそれがあります。
●電解液がバッテリからこぼれて皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに清潔な水で洗い流してください。また、目に入った場合は、すぐに清潔な水で洗った後、医師の治療を受けてください。
●電解液がこぼれた場合は、直ちに重曹（重炭酸ソーダ）などで中和（泡が出なくなるまで）し、多量の水で洗ってください。
●バッテリは必ず使用期限を守ってください。劣化したバッテリの使用を続けると、液漏れ等による火災の原因となります。
●バッテリの交換は、三菱電機システムサービス株式会社にご依頼してください。三菱電機システムサービス株式会社以外によるバッテリ交換による機器故障は弊社の保証対象となりません。一般家庭の個人等によるバッテリ交換は、感電、火災、故障の原因となりますのでお止めください。

■バッテリ（鉛蓄電池）の廃却について

●本製品のバッテリには、鉛蓄電池を使用しております。鉛蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。蓄電池の交換及び使用済み製品の廃却に際しては、鉛蓄電池のリサイクルへご協力ください。
●バッテリは、そのまま廃却しないでください。古いバッテリは、「特別管理産業廃棄物」として、「廃棄物処理法」に定められた手続きにより廃却する必要があります。特に事業者が廃却する場合は、特別な管理が必要になります。詳細については日本電池工業会のホームページ内産業用電池のリサイクルの項目を参照してください。一般家庭の個人が廃却する場合は、地方自治体によりその対処方法が異なりますので、各々の地方自治体にご確認ください。

ＥＶ用パワーコンディショナの特長

1. 電気自動車、太陽光発電システム、系統の電力を同時に使用可能

電気自動車、太陽光発電システム、系統の３種類の電力から、家庭内の使用電力量とお選びの運転モードに応じて買電電力量を抑制することで、エネルギーピークシフトに大きく貢献できます。太陽光発電の余剰電力を多く売電することもできます。

※太陽光発電システムを設置する場合に限ります。

2. 大容量蓄電システムを構築

電気自動車のバッテリ容量は一般的な定置型システムに比べて大容量。電気自動車とＥＶ用パワーコンディショナの組み合わせにより、大容量蓄電システムを構築できます。
また、「シームレス充放電技術」により、充電⇔放電の切替え時に、電力供給停止時間（瞬時停電）なく運転継続することができます。

3. ＥＶへの中速充電機能

・最大出力６ｋＷの充電能力により、普通充電器の 1/ 2の時間※1 で充電することができます。
・充電コネクタは CHAdeMO（チャデモ）※2 規格を採用していますので、CHAdeMO 規格充電対応車への充電が可能です。

※1　200V普通充電器（出力3kW）と、EV用パワーコンディショナ「SMART V2H」（出力6kW）を比較した場合。使用条件により充電量は変化します。
※2　CHAdeMO（チャデモ）はEVの急速充電方法の商標で、CHAdeMO（チャデモ）協議会の登録商標です。

・EV用パワーコンディショナ本体、または、リモコン操作により車両に充電できます。
・リモコンの操作によりタイマー設定による充電も可能です。

4. 契約電力内充電

契約電力により設置される受電部のブレーカ容量を超えないように、充電電力をコントロールします。

※契約ブレーカ容量を超える負荷が接続された場合は、契約ブレーカがトリップします。
※力率の悪い家電製品を使用すると、本機能が効かない場合があります。

5. 停電時に対応

停電時の自立運転で、家庭用のコンセントからそのまま住宅内に電力が供給できます。太陽光発電を併設すれば、停電時に電気自動車への充電も可能です。

6. 鍵付ケーブルカバー取付け可能

充電ケーブルの保護、充電中のいたずら防止のために、鍵付ケーブルカバーをオプション（別売）で準備しています。

●さまざまな運転モード

３つの通常運転（自動運転）モードと、６つの割り込み運転（手動運転）モードを選択できます。

【３つの通常運転】

あらかじめ設定された充電時間や給電時間に従って自動運転するモードです。

①エコノミーモード・・・・・・ P37 参照

夜間はＥＶに充電、昼間はＥＶから給電するピークシフトで、経済性を優先するモードです。

②グリーンモード・・・・・・・ P39 参照

昼間は PV の電力で生活・EV 充電を行い、夜間は EV から給電を主な電力源とすることで、エネルギーの自給自足を目指す環境に配慮したモードです。

③ＥＶ予約充電モード・・・・・ P41 参照

設定した時間にＥＶに充電するモードです。充電された電力は給電には使用されません。

【６つの割り込み運転】※1

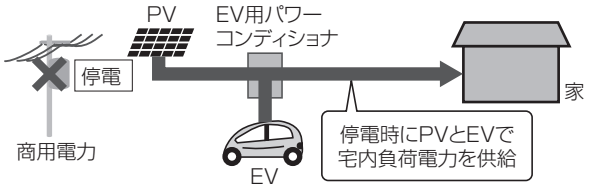
あらかじめ設定された充電時間や給電時間に関係なく手動運転するモードです。

①ＥＶ充電運転・・・・・・・・ P31 参照

運転モード、設定時間に関係なく、ＥＶ充電を開始します。

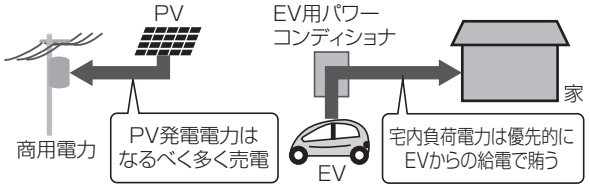
②自立運転・・・・・・・・・・ P35 参照

自立運転（ＰＶ※2とＥＶからの給電）を開始します。



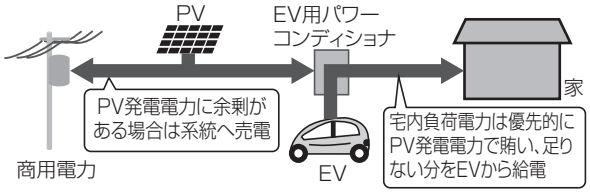
③売電最大運転・・・・・・・・ P43 参照

宅内の電力はＥＶからの電力を優先し、ＰＶの売電を優先するモードです。（EVP-SS60A-M5,-M7 のみ）



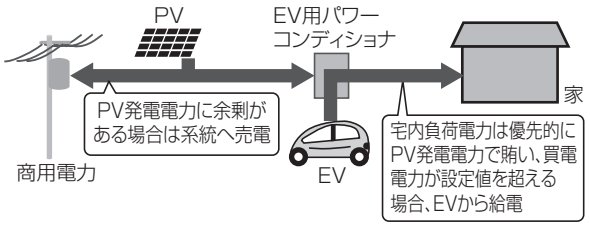
④余剰売電運転・・・・・・・・ P45 参照

宅内の電力はＰＶからの電力を優先し、余った電力を売電するモードです。



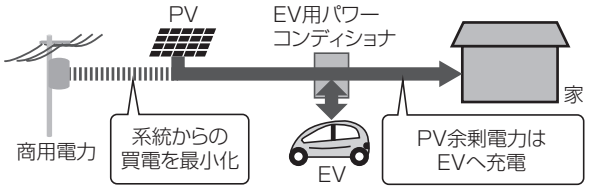
⑤ピークカット運転・・・・・・ P47 参照

設定したピークカット目標値を超えないようにＥＶから給電し、買電を抑えるモードです。



⑥買電最小運転・・・・・・・・ P49 参照

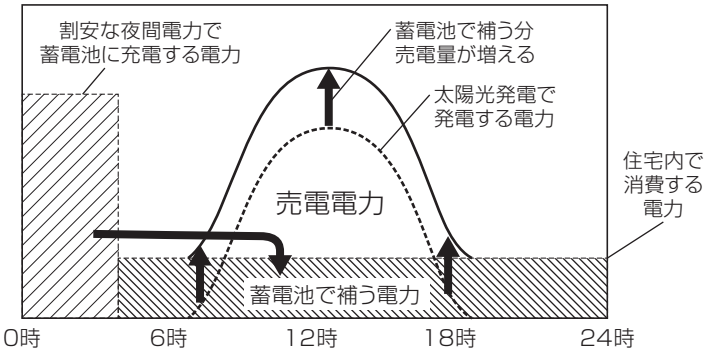
宅内消費電力をＰＶやＥＶからの給電でまかない、買電を最小に抑えるモードです。



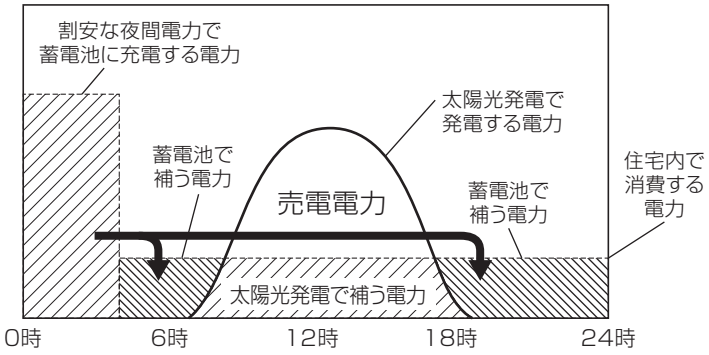
※１ 割り込み運転を使用すると通常運転が解除されます。通常運転を選択する場合は、再度モードの設定が必要です。
※２ 太陽光発電（PV：photovoltaic power generation）

タイプM、タイプYの違い

■タイプMイメージ図　エコノミーモード（売電最大）



■タイプYイメージ図　エコノミーモード

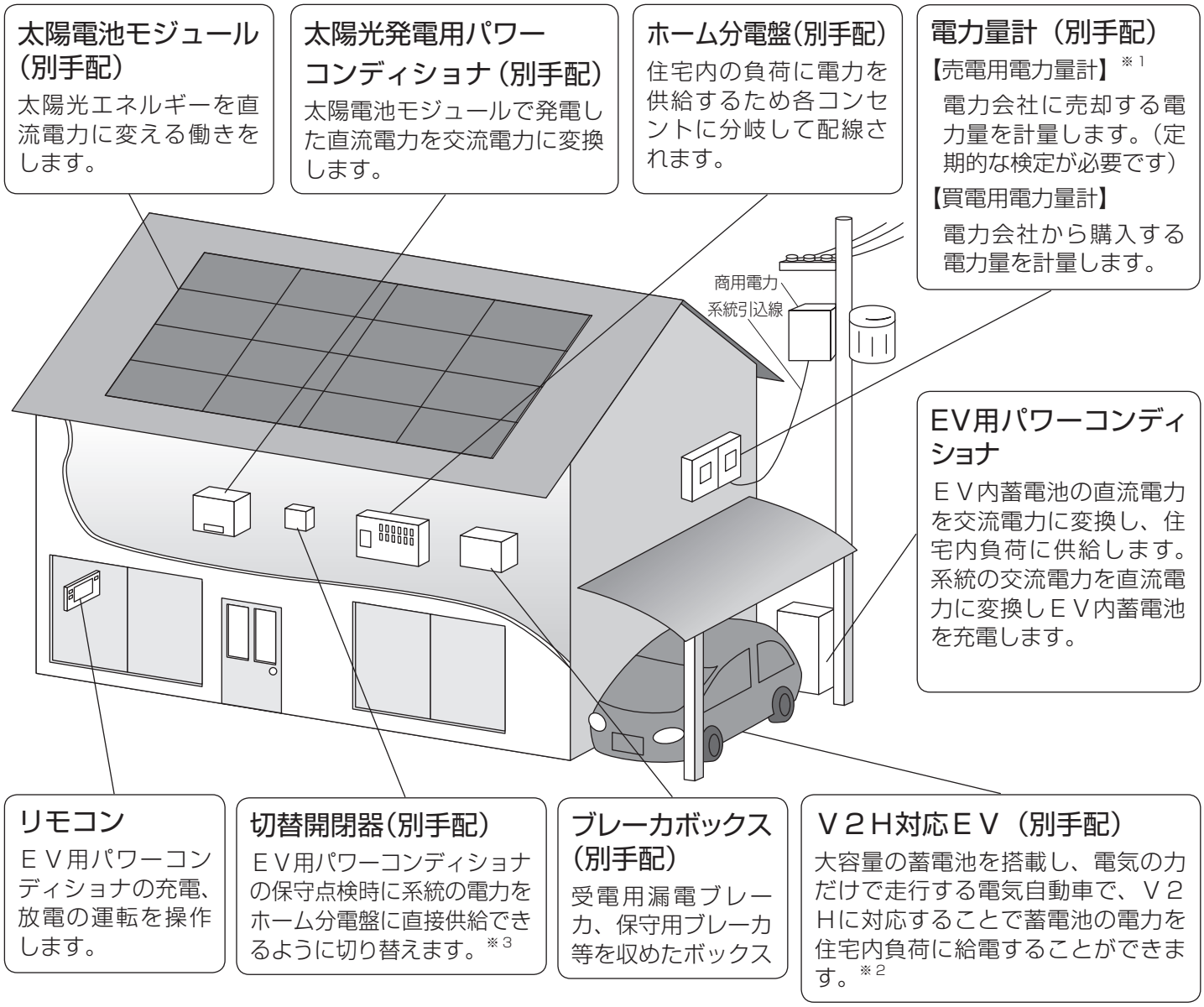


商品タイプ	概　　要	電力売電ニーズ
タイプM （ダブル発電適用） EVP-SS60A-M5 EVP-SS60A-M7	昼間に家庭内で使う電力をEVから給電し、PVで発電した分の電力はなるべく多く売電することになります。 この場合、売電単価はダブル発電単価となり、売電単価は余剰売電単価に比べて低くなりますが、総売電電力量は多くなります。	PVでつくった電気をできるだけ多く売りたいかたに最適。
タイプY EVP-SS60A-Y5 EVP-SS60A-Y7	昼間に使う電力をPVでまかない、余った電力のみを売電する（売電中はEVからの給電はしない）場合は、余剰売電単価となります。 総売電電力量は少なくなりますが、売電単価は高くなります。	電力会社からの電気の購入をできるだけ減らしたいかた、PVでつくった電気を余剰売電単価で売りたいかたに最適。

お願い

タイプを変更される場合は、電力会社様との契約の変更、連系立会いが必要となりますので販売店にご相談ください。

システム機器配置例



※１：EV 内蓄電池の電力は売電（商用系統への逆潮流）することができません。

※２：給電（V2H）機能は日産リーフ、三菱自動車 MiEV シリーズが対応しています。
今後対象車種を追加予定です。
「リーフ」は、日産自動車株式会社の登録商標です。
「MiEV」は三菱自動車工業株式会社の登録商標です。

※３：切替開閉器をブレーカボックスに収めても問題ありません。

ご使用のまえに

据付けに関するお願い

●お客様ご自身では据付けしないでください。（安全や機能の確保ができません）
●お客様ご自身で EV 用パワーコンディショナ内のブレーカを ON にしないでください。
●パワーコンディショナが下記のような場所に据付けられていないか確認してください。
・ガス類や引火物の近く (ガスボンベからは２m以上離す。)
・温泉など腐食物質が存在するところ
・物置など換気の少ない密閉された狭い空間
・浴室の窓付近など蒸気が存在し、湿気の多い場所
・過度の水蒸気、煙、塵埃、塩分が存在するところ
・振動または衝撃を受けるところ
・テレビ、ラジオのアンテナやケーブルに近いところ（３m以上離すこと）
・降雪時に雪に埋もれるところ
・降雨時に冠水し、水につかるような場所
・常に水に濡れるところ
・特殊な条件下（船舶、自動車など）
・重塩害地域、塩害地域
・日中（10:00 ～ 15:00）に直射日光の当たるところ（風通しの良い日陰への据付けをおすすめします）
・アスファルトの上への直接施工（必ずコンクリート基礎を準備すること）
・ＥＶ用パワーコンディショナの充電ケーブルが、車両の急速充電口に届かないところ
●リモコンが下記のような場所に据付けられていないか確認してください。
・屋外
・人の手が届かない高所や押入れの中
・台所などの油蒸気が存在するところ
・浴室の窓付近など湿気の多い場所
・過度の水蒸気、煙、塵埃、塩分が存在するところ

お願い

車両がEV用パワーコンディショナに衝突するとパワーコンディショナが故障します。
必ず、輪止め等の保全をしてください。
（車両の衝突に起因する不良修理対応は有償となります）

工事が完了しましたら販売店・電力会社から次の資料を受け取り、大切に保管してください。
（竣工点検表で工事が確実に行われたことを確認してください）

大切に保管してください

販売店より

- システム仕様書※
- システム配線系統図※
- システム機器配置図※
  ※販売店の書式による
- 取扱説明書（本書）
- 据付工事説明書
- 竣工点検表
- 機器保証書
- パワーコンディショナ出荷検査成績書
- EV用パワーコンディショナ定期検査点検表

電力会社より

- 電力受給契約書（電力会社により書類が異なります）

※保証書の「引き渡し日」「保証期間」「販売店名」を必ず確認してください。

定期点検のおすすめ

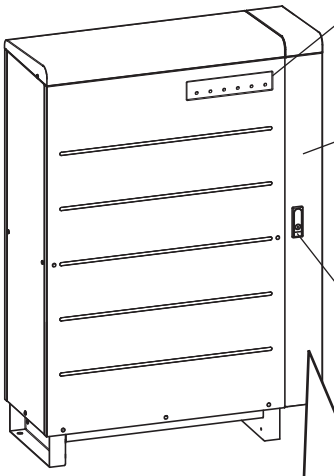
製品を長く安全にお使いいただくため定期的なお手入れをおすすめします。（P56 参照）

■太陽光発電システムの売電料金の請求のしかた

太陽光発電システムで発電され消費電力として消費し切れず余った電力は、電力会社が購入しますので、電力受給契約書に基づき電力会社へ売電料金の請求の手続きを行ってください。
ＥＶ用パワーコンディショナと組み合わせて使用する場合、ダブル発電の適用を受ける場合と受けない場合で、太陽光発電電力の売電単価が異なります。

各部のなまえとはたらき

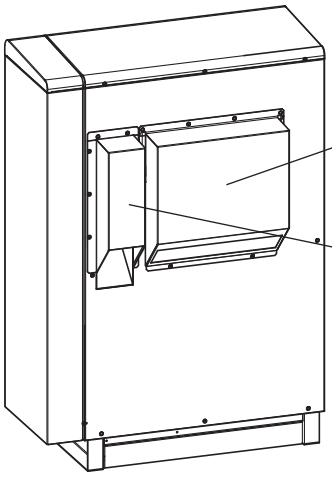
■ＥＶ用パワーコンディショナ本体【製品外観】



表示部
EV 用パワーコンディショナの
状態を表示します。

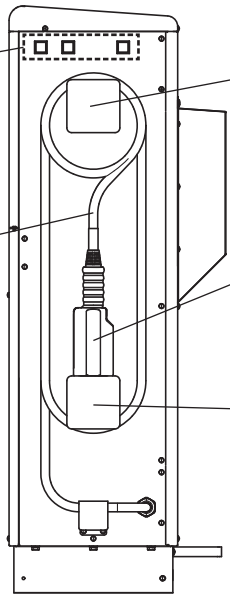
鍵付ケーブルカバー
（オプション）
収納時のケーブルを
保護するカバーです。

ハンドル
（オプション）
扉を開閉するときの
ハンドルです。
施錠できます。



排気用フード
排気部の保護用カバーで
水、埃の侵入を防止します。

配線口カバー
配線部の保護用カバーで
水、埃の侵入を防止します。



操作部
EV 用パワーコンディショナ
本体で操作するボタンです。

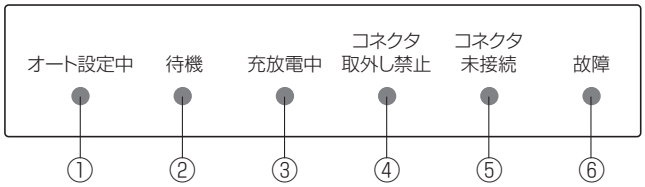
充電ケーブル
ＥＶ用パワーコンディショナと
車両を接続します。

ケーブルフック
車両と接続しない時に
ケーブルを掛けます。

コネクタ
車両の急速充電口に
接続します。

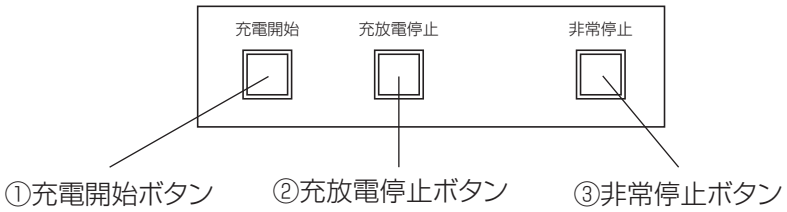
コネクタ収納ボックス
車両と接続しない時にコネクタを
収納します。

【表示部】



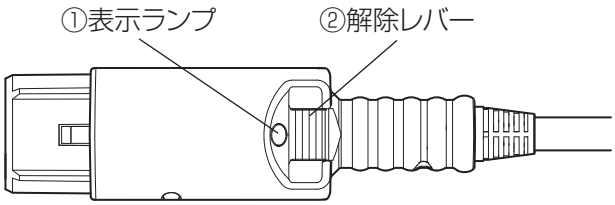
ランプの種類	ランプの色	本製品の状態
①オート設定中	緑	通常運転（自動運転）を設定した場合に点灯します。
②待機	緑	充電、放電（給電）動作の準備中に点灯します。
③充放電中	緑	充電動作時、放電（給電）動作時に点灯します。
④コネクタ取外し禁止	橙	充電中、放電（給電）中など安全上コネクタの取外し操作を禁止する場合に点灯します。
⑤コネクタ未接続	橙	車両にコネクタが接続されていない場合に点灯します。
⑥故障	赤	故障が発生したときに点灯します。

【操作部】



なまえ	機能説明
①充電開始ボタン	車両への充電を開始します。（通常運転（自動運転）を設定している場合は無効となります。）
②充放電停止ボタン	車両への充電や、車両からの放電（給電）を停止します。 通常運転（自動運転）中は、ボタンを押すと一時停止します。コネクタを抜き差しするか、リモコン操作をすると、一時停止を解除し、通常運転（自動運転）が再開します。※ ※割り込み運転はコネクタの抜き差しにより再開されません。 ※コネクタの抜き差しによる通常運転の一時停止解除機能は、ご使用の車種により使用できない場合がございます。
③非常停止ボタン	充電や放電（給電）を停止します。※ 通常は、充放電停止ボタンで停止してください。 ※誤って非常停止ボタンを押してしまった場合は、②充放電停止ボタンを長押し（約５秒間）して解除できます。 リモコンの操作では解除できません。

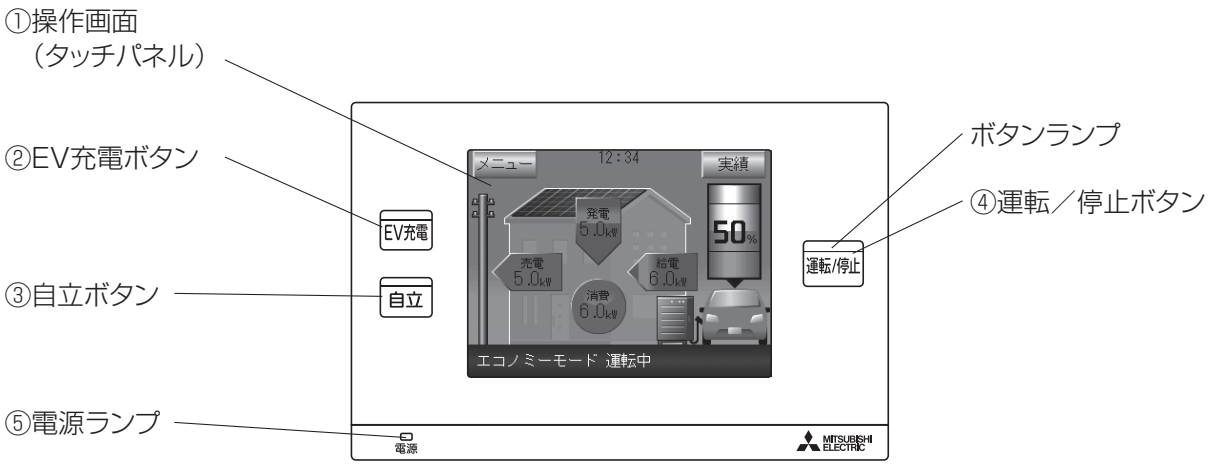
【コネクタ】



なまえ	機能説明
①表示ランプ	コネクタがロックされて取り外しできない状態の場合に点灯します。点灯時はコネクタを取外すことはできません。コネクタ取りはずし時に表示ランプが点灯している場合は、本体の「充放電停止ボタン」を押して消灯させてください。
②解除レバー	充放電が停止し、コネクタを取りはずすときに押します。

各部の名前とはたらき　つづき

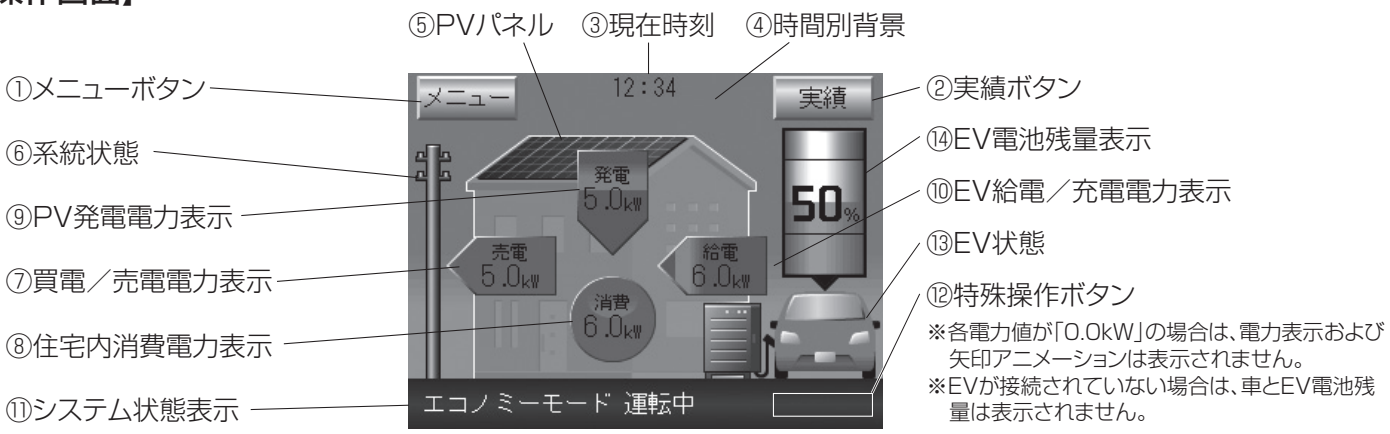
【リモコン】



なまえ	機能説明
①操作画面 （タッチパネル）	現在の状態の表示や、各種設定、運転モードの切り替えを画面タッチで行います。 無操作状態で約５分経過すると液晶画面とバックライトが消灯します。 消灯時に画面をタッチすると液晶画面とバックライトが再点灯します。
②ＥＶ充電ボタン	ＥＶ充電運転する場合に押します。 運転開始操作はホーム画面表示時のみ有効です。 ボタンランプは、EV 充電時（割り込み運転）：点灯、それ以外：消灯します。
③自立ボタン	自立運転する場合に押します。 運転開始操作はホーム画面表示時のみ有効です。 ボタンランプは、自立時：点灯、それ以外：消灯します。
④運転／停止ボタン	各運転モードを運転または停止します。 停止時に「運転／停止」ボタンを押すと前の運転モードを再開します。 運転中に「運転／停止」ボタンを押すと停止します。 運転開始操作はホーム画面表示時のみ有効です。 ボタンランプは、運転時：点灯、停止時：消灯します。 通常運転（自動運転）設定時はタイマーによる運転自動停止時を含めて、点灯します。
⑤電源ランプ	ＥＶ用パワーコンディショナから電源が供給されると点灯します。 通常常時点灯します。

※停電発生により自立運転設定が可能な場合、および非常停止中には全てのボタンランプが点滅します。

【操作画面】

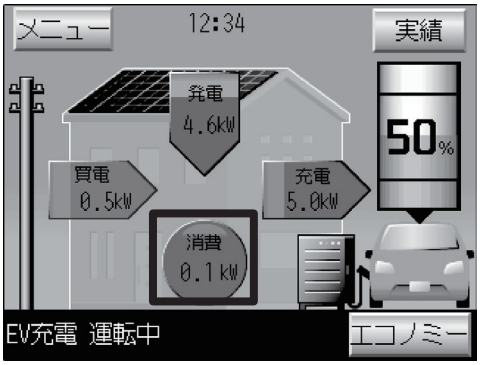


※各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示および矢印アニメーションは表示されません。
※EVが接続されていない場合は、車とEV電池残量は表示されません。

なまえ	機能説明
①メニューボタン	ボタンを押すとメニュー (1/3) 画面を表示します
②実績ボタン	ボタンを押すと各種積算電力量の状況を表示します
③現在時刻	現在時刻を表示します。(00:00 ～ 23:59)
④時間別背景	現在時刻に応じて背景画像を切り替えます。 6:00 ～ 17:59 は日中背景、18:00 ～ 5:59 は夜間背景を表示します。
⑤ＰＶパネル	メニュー 2/3 の「システム履歴 / 機器情報」-「機器情報」-「太陽光発電システム」が「接続」に設定されている場合、ＰＶパネルを表示します。(出荷時は、未接続に設定されています)
⑥系統状態	系統状態に応じて系統電柱画面を切り替えます。 正常時は通常電柱画像、停電時は×付電柱画像を表示します。
⑦買電／売電電力表示	系統からの売電、買電電力を表示します。(売電は左矢印、買電は右矢印) 表示箇所を押すと吹き出しで「本日の電力量収支（買電または売電)」を表示します　本日の電力量収支（買電）15.9kWh
⑧住宅内消費電力表示	住宅内の消費電力を表示します。 表示箇所を押すと吹き出しで「本日の積算電力量」を表示します。　本日の積算消費電力量 15.9kWh
⑨ＰＶ発電電力表示	ＰＶの発電電力を表示します。 表示箇所を押すと吹き出しで「本日の積算発電電力量」を表示します。　本日の積算発電電力量 15.9kWh
⑩ＥＶ給電／充電電力表示	ＥＶの給電、充電電力を表示します。(給電は左矢印、充電は右矢印) 表示箇所を押すと吹き出しで「本日の電力収支（給電または充電)」を表示します。　本日の電力量収支（給電）15.9kWh
⑪システム状態表示	運転状態、系統状態など、システムの運転状態を表示します。 運転モードを切り替えると、選択した運転モードで「○○○ 運転中」と文字が点滅表示し、運転準備状態になります。しばらく経過すると、「○○○ 運転中」文字が通常表示し、選択した運転状態になります。 文字が点滅表示中に、文字箇所を押すと、システムコードなどの運転状態を表示することができます。 HEMS 操作中は「HEMS 操作中：○○○」と表示されます。
⑫特殊操作ボタン	・ショートカット機能として、前回運転していた通常運転（自動運転）の設定に応じて、「エコノミー」/「グリーン」/「ＥＶ予約充電」ボタンの何れかを表示します。割り込み運転後、通常運転に戻したい場合などに押してください。 ・通常運転中にＥＶ用パワーコンディショナ本体側で充放電停止ボタンを押すと、通常運転は一時停止になり、「一時停止解除」ボタンが表示されます。リモコン側から通常運転を継続したい場合に押してください。 P11 ・HEMS 操作中はリモコンでの運転ができません。HEMS 操作中は、特殊操作ボタンが「HEMS 解除」と表示されますので、リモコン運転したい場合はボタンを押して HEMS 解除してください。
⑬ＥＶ状態	“EV 接続状態”、”放電未対応”に応じて EV 車画像を切り替えます。 “EV 接続状態”が検出できない場合は白抜車画像、検出時は青色車画像、“放電未対応”の EV が検出された場合は車画像上部に「充電のみ」と表示されます。
⑭ＥＶ電池残量表示	・ＥＶの電池残量を数値（0 ～ 100%）と電池残量アニメーションで表示します。ＥＶから値を取得できない場合は、「－－」で表示します。 ・ＥＶの電池残量は、コネクタを抜き差しされた場合などは、再度、各運転モードによりＥＶ給電／充電しないと EV から値を取得できません。 ・“充電上限設定”、”放電下限設定”に応じて、上下限領域を表示します。また、電池表示箇所を押すと吹き出しで“充電上限設定値”、”放電下限設定値”(0 ～ 100%) を表示します。 ・“EV 満充電”、”EV 不足充電”に応じて、「Limit」を表示します。(残量 100% の場合「Full」)。“EV 満充電”の場合、電池残量の上部、“EV 不足充電”の場合、電池残量の下部に表示します。リモコンと車両の表示が異なる場合がありますが計算方式の違いによるもので異常ではありません。　充電上限値 80% 放電下限値 20%

※本製品は計量法の対象製品ではありません。表示される数値は目安であり、電力量計の値や電力会社からの請求書他、各種数値と異なる場合があります。

【電力表示】



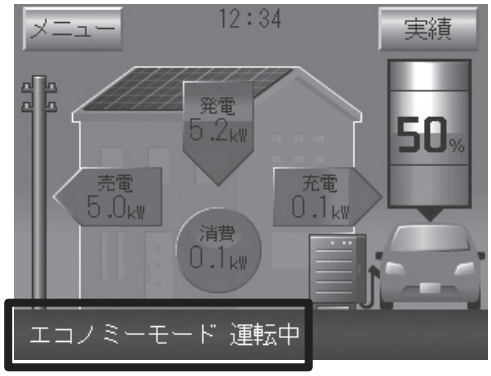
メモ

リモコンの電力表示はいずれも交流（系統側）の電力を表示しています。

※EV 用パワーコンディショナが交流電力を直流電力に変換するための損失はＥＶ充電電力表示に含まれます。

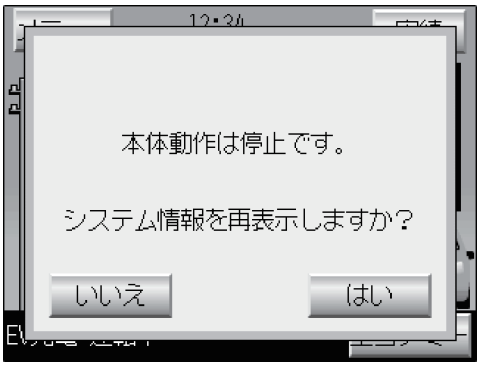
※EV 用パワーコンディショナの消費電力は住宅内消費電力表示に含まれます。

【システム状態表示】

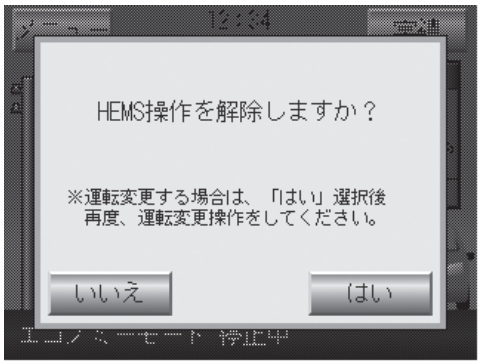


メモ

運転モードを切り替えると、選択した運転モードで「○○○ 運転中」と文字が点滅表示し、運転準備状態になります。しばらく経過すると、「○○○ 運転中」文字が通常表示し、選択した運転状態になります。



※システム状態表示が点滅表示中に、文字箇所を押してシステム情報を取得すると、現在発生しているシステムコードなどの情報を表示して、運転モードが変化しない原因を確認することができます。



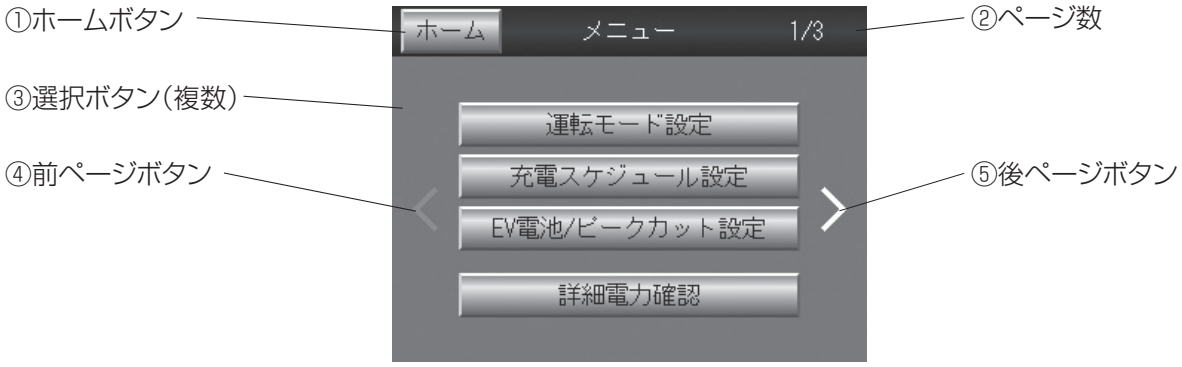
メモ

HEMS 操作中はホーム画面左下のシステム状態表示に「HEMS 操作中：○○○」と表示されて、リモコンでの運転ができません。リモコン運転したい場合は、ホーム画面右下の「HEMS 解除」ボタンを押すと、「HEMS 操作を解除しますか？」のポップアップ確認画面が表示されるので、「はい」を押した後、リモコン運転をしてください。

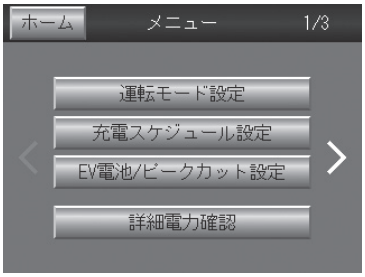
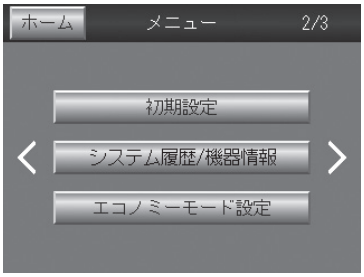
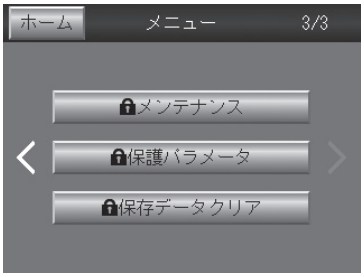
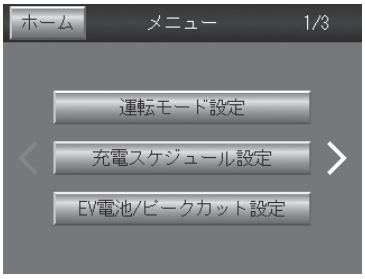
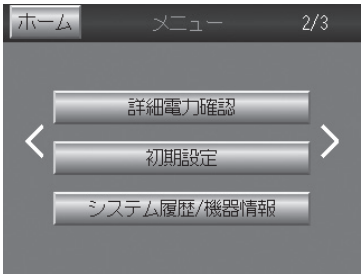
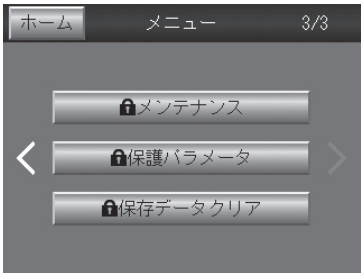
（HEMS を解除せずに、ＥＶ充電ボタン、自立ボタン、運転／停止ボタン、または、メニュー画面中の「運転モード設定」ボタンを押しても、「HEMS 操作を解除しますか？」のポップアップ確認画面が表示されます。）

以前のリモコン運転が通常運転（自動運転）であった場合は、HEMS 操作を解除した後、以前のリモコンの通常運転（自動運転）状態に戻ります。また、以前のリモコン運転が割り込み運転（手動運転）であった場合は、HEMS 操作を解除した後、HEMS で設定した割り込み運転（手動運転）と同じ運転状態が継続します。

【メニュー画面】



なまえ	機能説明
①ホームボタン	ボタンを押すとホーム画面を表示します
②ページ数	ページ数を（1/3 ～ 3/3）で表示します。 3/3 はサービスマンが製品設置時などに使用するページで、お客様はご使用できません。
③選択ボタン（複数）	ボタンに応じた設定画面に遷移します。
④前ページボタン	前ページのメニュー画面に遷移します。
⑤後ページボタン	後ページのメニュー画面に遷移します。

商品タイプ	メニュー 1/3	メニュー 2/3	メニュー 3/3
タイプM （ダブル発電適用） EVP-SS60A-M5 EVP-SS60A-M7			
タイプY EVP-SS60A-Y5 EVP-SS60A-Y7			

※ 3/3 はサービスマンが製品設置時などに使用するページで、お客様はご使用できません。

【メニュー一覧】

メニュー画面	タブ	機能選択	設定	説明
運転モード設定	通常運転設定	エコノミー	エコノミーモードの運転開始	夜間は EV に充電、昼間は EV から給電するピークシフトで、経済性を優先するモードです。
		グリーン	グリーンモードの運転開始	昼間は PV の電力で生活・EV 充電を行い、夜間は EV から給電する、環境に配慮したモードです。（充電設定もできます）
		ＥＶ予約充電	EV 予約充電モードの運転開始	ユーザーの時間設定で EV に充電するモード ※ EV の電力は給電に利用しない設定。
	割り込み運転設定	売電最大（ダブル発電機種のみ）	売電最大運転開始	宅内消費は EV からの給電でまかない、太陽光発電電力の売電を優先するモードです。
		余剰売電	余剰売電運転開始	宅内消費は太陽光発電からの電力を優先し、余った電力は売電するモードです。
		ピークカット	ピークカット運転開始	目標値を超えないように EV から給電し、買電を抑えるモードです。
		買電最小	買電最小運転開始	宅内消費を EV からの給電でまかない、買電を最小に抑えるモードです。太陽光発電からの電力が余れば EV 充電します。
充電スケジュール設定	充電タイプ設定	夜間電力利用	通常運転時の充電時間設定	EV 充電を、契約による電気料金が割安の夜間時間帯で行う場合に選択してください。
		ユーザー設定	通常運転時の充／給電時間設定	EV 充／給電を、任意の設定時間で行う場合に選択してください。
		夜間電力外充電	有効 / 無効	夜間電力時間中に充電が完了しない場合に、夜間電力時間を超えて充電を継続するかを選択してください。
	充電 / 給電時間設定	充電時間	HH:MM ～ HH:MM	EV 充電を実施する時間を設定してください。
		給電時間	HH:MM ～ HH:MM	EV 電力を宅内消費に活用する時間を設定してください。 ※ EV が未接続または充電量が少ない場合を除きます。
ＥＶ電池 / ピークカット設定	ＥＶ電池設定 1	充電上限設定 1	**%	接続する EV に充電する上限値を設定します。 ※設定値になった場合には充電を停止します。
		充電残量設定 1	**%	EV の給電利用時に、残しておく充電量を設定します。 ※設定値になった場合には給電（放電）を停止します。
	ＥＶ電池設定２	充電上限設定２	**%	買電最小（グリーンモードの場合は「給電時間」動作時）の時に、EV 電池を長持ちさせるために、充電を制限する上限値を設定します。 ※設定値になった場合には給電（放電）のみ実施します。
		充電残量設定２	**%	非常時のために、残しておく充電量を設定します。 ※ EV の放電下限値＋設定値になった場合には給電（放電）を停止します。
	ピークカット設定	ピークカット目標値	**.*kW	電力会社から買う電力の節約目標とする上限値を設定してください。（ピークカット運転時のみ有効）

メニュー画面	タブ	機能選択	設定	説明
詳細電力確認	日（8日分）	グラフ	−	1日の各電力量を時間単位でグラフ表示します。
		数値	−	1日の各電力量を時間単位で数値表示します。
	月（3ヶ月分）	グラフ	−	1ヶ月の各電力量を日単位でグラフ表示します。
		数値	−	1ヶ月の各電力量を日単位で数値表示します
	年（3年分）	グラフ	−	1年の各電力量を月単位でグラフ表示します。
		数値	−	1年の各電力量を月単位で数値表示します
初期設定	時刻設定	−	YYYY 年 MM 月 DD 日	時刻設定をしてください。
	契約内容入力	夜間電力時間帯	HH:MM ～ HH:MM	「夜間電力利用」選択時の契約による電気料金が割安の夜間時間帯を設定してください。
		契約容量	30A(3kVA)、40A(4kVA)、50A(5kVA)、60A(6kVA)、30A(6kVA)、40A(8kVA)、50A(10kVA)	電力会社との契約内容を入力してください。
	その他	ブザー音量	切 / 小 / 中 / 大	ブザー音量を選択してください。
		ＬＡＮ接続	有効 / 無効	ＬＡＮ接続の有効 / 無効を選択してください。
システム履歴 / 機器情報	システム履歴	−	−	システム履歴は最大 20 個まで閲覧できます。古いものから順に上書き消去されます。
	機器情報	−	−	ＭＡＣアドレス表示 リモコンソフトバージョン表示 本体ソフトバージョン表示
		太陽光発電システム	接続 / 未接続	太陽光発電システムの設置状況を入力してください。
エコノミーモード設定 EVP-SS60A-M5、-M7 のみ	−	売電条件設定	売電最大 / 余剰売電	通常運転「エコノミーモード」の売電に関する条件を設定してください。

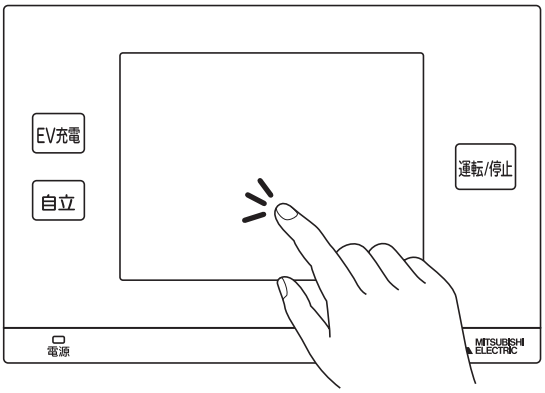
各メニューの設定は、運転状態により設定値が変更できない場合があります。
その場合はポップアップ画面が表示され、設定を変更できないことを表示します。
設定変更できる条件を下表に示します。
ピークカット設定、時刻設定、ブザー設定以外の設定変更は、運転が停止状態時に反映されます。

○：設定変更可能　×：設定変更不可

運転モード / 設定変更項目	停　止	ＥＶ充電運転 自立運転 売電最大運転 余剰売電運転 ピークカット運転 買電最小運転	エコノミーモード グリーンモード ＥＶ予約充電モード
充電タイプ設定	○	○	×
充電 / 給電時間設定	○	○	×
ＥＶ電池設定１	○	×	×
ＥＶ電池設定２	○	×	×
ピークカット設定	○	○	○
時刻設定	○	○	×
契約内容入力	○	×	×
その他 - ブザー、ＬＡＮ	○	○	○
情報機器 - 太陽光	○	×	×
エコノミーモード設定	○	○	×

タッチパネルの使い方

リモコンのディスプレイはタッチパネルになっており、ディスプレイを直接指で触れて操作できます。
タッチパネルを軽くたたく操作で目的の項目に触れると、その項目を選択できます。



タッチパネル使用上のご注意

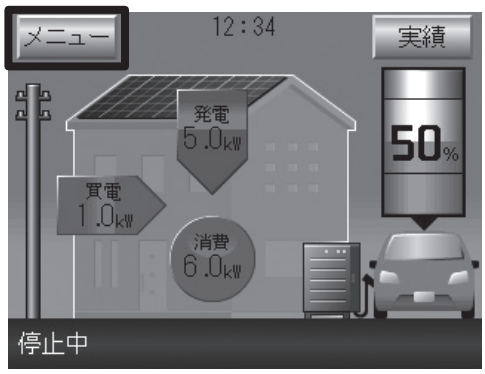
- ●必要以上に強い力で操作しないでください。故障の原因になります。
- ●汚れた指で操作しないでください。画面に汚れが付着して見えにくくなることがあります。
- ●タッチパネル画面は強化ガラスでできていますが、万が一強化ガラスが割れた場合は指で触れたりせず修理を依頼してください。
- ●タッチパネル表面にフィルムなどを貼らないでください。タッチ操作が正常に行えなくなることがあります。
  また、汚れや水滴が付いた場合は柔らかい布で取り除いてください。
- ●ボールペンやシャープペン、金属類などの硬いものや鋭利なものでは操作しないでください。けがや故障の原因となります。
- ●タッチする力が弱いと反応しないことがあります。
- ●タッチ操作はゆっくり確実に行ってください。素早く連打などすると、誤動作の原因となります。

使用前の準備

ご使用になる前に、「初期設定」、「エコノミーモード設定」（EVP-SS60A-M5，-M7 のみ）、「充電スケジュール設定」、「ＥＶ充電 / ピークカット設定」の４つの設定が必要です。

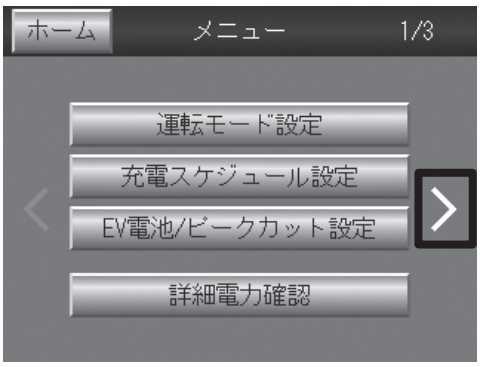
設定は運転停止（運転／停止ボタン LED オフ）状態で設定してください。説明の画面は EVP-SS60A-M5，-M7 の場合です。EVP-SS60A-Y5，-Y7 はメニュー画面説明（P15 参照）をご覧ください。

1. 初期設定

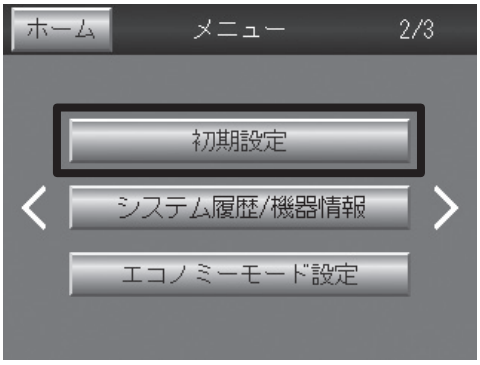


（1）「メニュー」ボタンを押す。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※"EV接続状態"が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「ーー」で表示します。



（2）「>」を押す。



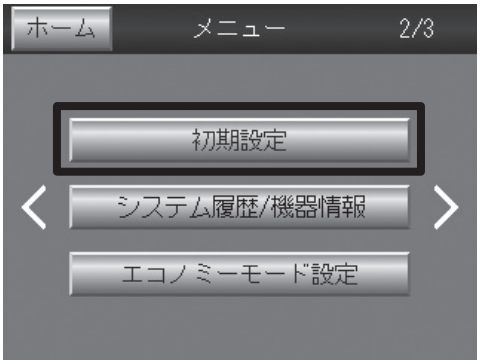
（3）「初期設定」ボタンを押す。

設定後

（4）「時刻設定」ボタンを押し、「▼」「▲」ボタンで日時を設定して「完了」ボタンを押す。

「完了」ボタンを押すと 00 秒からスタートします。

※変更が無い場合は「完了」ボタンを押せないので、「戻る」ボタンを押してください。



(5)「初期設定」ボタンを押す。

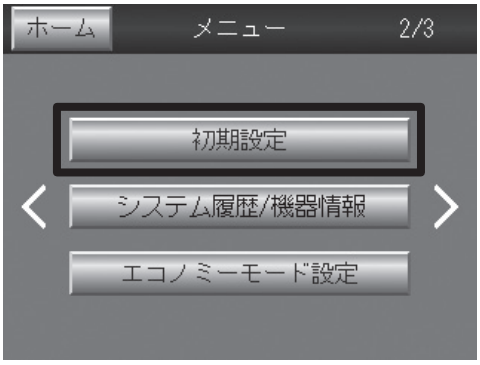
設定後

(6)「契約内容入力」ボタンを押し、「▼」「▲」ボタンで「夜間電力時間帯」(P6 参照)および「契約容量」を設定して「完了」ボタンを押す。

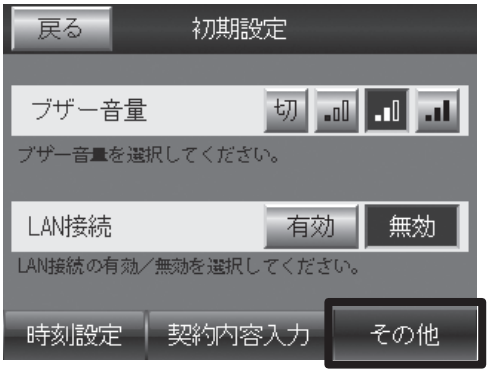
契約容量は、30A(3kVA)、40A(4kVA)、50A(5kVA)、60A(6kVA)、30A(6kVA)、40A(8kVA)、50A(10kVA) から選択できます。

※変更が無い場合は「完了」ボタンを押せないので、「戻る」ボタンを押してください。
※本設定は、ブレーカートリップ防止用であり、電力会社との契約容量に応じた正しい値を設定してください。契約容量の設定は、高めに設定することはできますが、契約ブレーカーがトリップする場合がありますのでご注意ください。また、低めに設定することは可能ですが、EV充電完了時間が長くなる場合がありますので、ご注意ください。

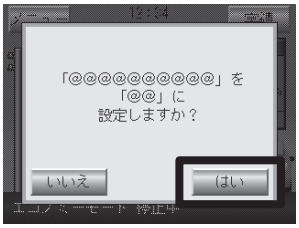
〈工場出荷時〉
「夜間電力時間帯」23:00～07:00、「契約容量」60A(6kVA)



(7)「初期設定」ボタンを押す。



(8)「その他」ボタンを押し、「ブザー音量」「ＬＡＮ接続」を設定すると、確認画面が出るので「はい」を押す。



@部分は下記のいずれかが表示されます。
・「ブザー音量」を「切」に設定しますか?
・「ブザー音量」を「小」に設定しますか?
・「ブザー音量」を「中」に設定しますか?
・「ブザー音量」を「大」に設定しますか?
・「LAN接続」を「有効」に設定しますか?
・「LAN接続」を「無効」に設定しますか?

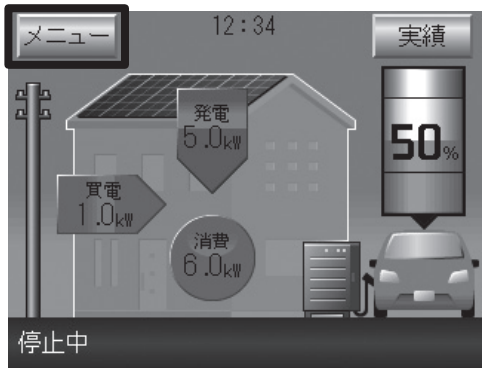
※LAN接続は、HEMSコントローラを接続する場合、「有効」に設定してください。
LAN接続しない場合は、「無効」に設定してください。

〈工場出荷時〉
「ブザー音量」切、「LAN接続」無効

（9）以上で初期設定は終了です。「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻ってください。

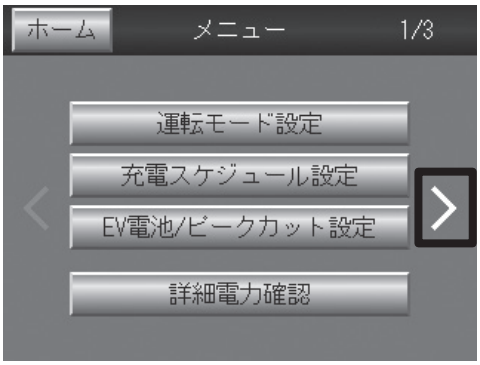
2. エコノミーモード設定

エコノミーモード運転の売電時の運転条件を設定します。（EVP-SS60A-M5，-M7 のみ）

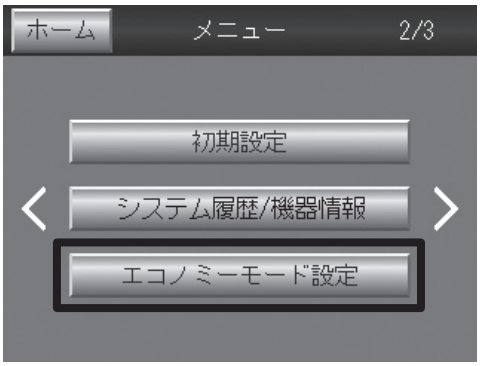


（1）「メニュー」ボタンを押す。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「ーー」で表示します。

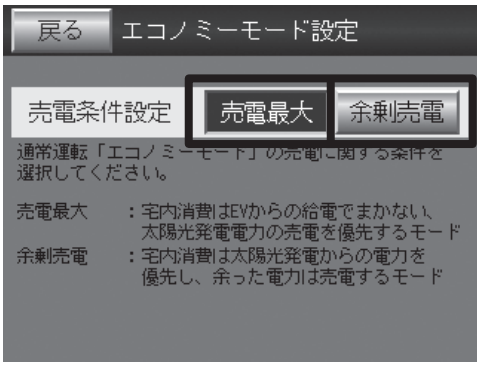


（2）「>」を押す。

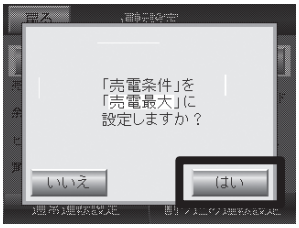


（3）「エコノミーモード設定」ボタンを押す。

本ボタンは EVP-SS60A-M5，-M7 のみ表示されます。



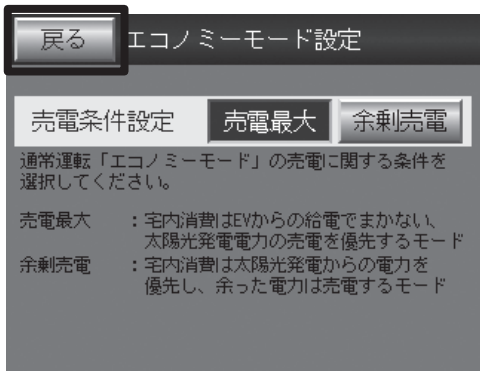
（4）売電条件設定で、「売電最大」または「余剰売電」ボタンを押すと、確認画面が出るので「はい」を押す。



〈工場出荷時〉
「売電条件設定」売電最大

お知らせ

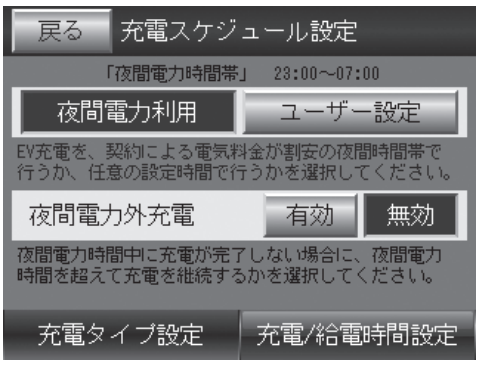
「売電条件」を「余剰売電」に設定した場合でも、EVP-SS60A-M5，-M7 の売電単価は変わりません。

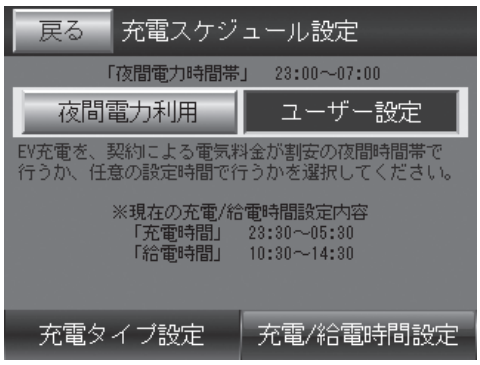


（5）以上でエコノミーモード設定は終了です。「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻ってください。

3. 充電スケジュール設定

通常運転時（エコノミーモード、グリーンモード、ＥＶ予約充電モード）にＥＶに充電 / 給電する時間を設定します。（給電時間設定はＥＶ予約充電モードには適用されません）





【充電スケジュール設定で「夜間電力利用」を選択時】

（Ａ）　夜間電力時間帯：ＥＶ充電動作

（Ｂ）（Ａ）以外の時間帯：

・エコノミーモード設定時：ＥＶ給電動作。

売電最大運転相当：宅内負荷をＥＶ給電でまかない、押し上げされたＰＶの発電電力は売電する。（ダブル発電機種のみ）

余剰売電運転相当：買電を最小にするように、宅内負荷をＥＶ給電とＰＶ給電でまかなう。

但し、ＰＶ発電で余剰電力が発生した場合は、ＥＶを停止し、

ＰＶの余剰電力を売電する。

・グリーンモード設定時：ＥＶ給電動作。

買電最小運転相当：買電を最小にするように、宅内負荷をＥＶ給電とＰＶ給電でまかなう。

但し、ＰＶ発電で余剰電力が発生した場合は、ＥＶ充電する。

・ＥＶ予約充電モード設定時：停止

【充電スケジュール設定で「ユーザ設定」を選択時】

（Ａ）　充電時間：ＥＶ充電動作

（Ｂ）　給電時間：

・エコノミーモード設定時：ＥＶ給電動作。

売電最大運転相当：宅内負荷をＥＶ給電でまかない、押し上げされたＰＶの発電電力は売電する。（ダブル発電機種のみ）

余剰売電運転相当：買電を最小にするように、宅内負荷をＥＶ給電とＰＶ給電でまかなう。

但し、ＰＶ発電で余剰電力が発生した場合は、ＥＶを停止し、

ＰＶの余剰電力を売電する。

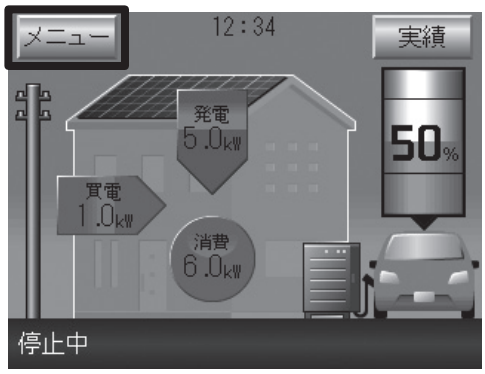
・グリーンモード設定時：ＥＶ給電動作。

買電最小運転相当：買電を最小にするように、宅内負荷をＥＶ給電とＰＶ給電でまかなう。

但し、ＰＶ発電で余剰電力が発生した場合は、ＥＶ充電する。

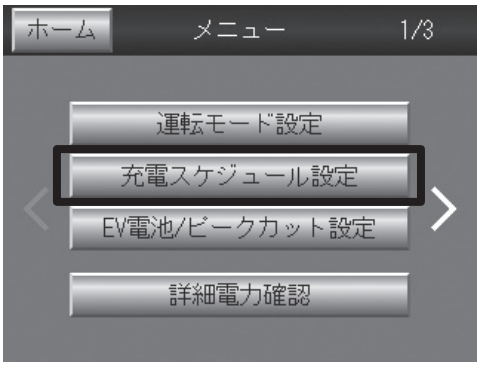
・ＥＶ予約充電モード設定時：停止

（Ｃ）（Ａ）と（Ｂ）以外の時間帯：停止

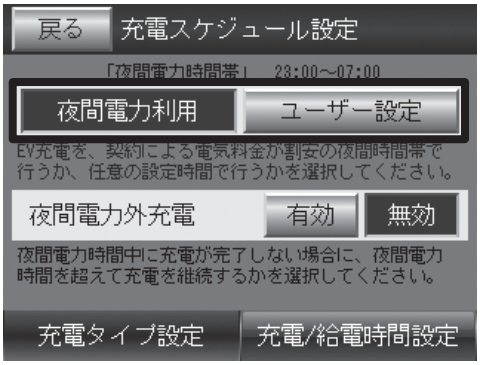


（1）「メニュー」ボタンを押す。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「ーー」で表示します。

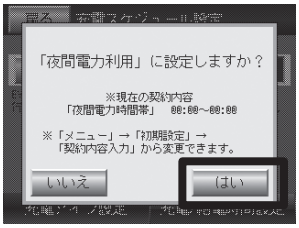


（2）「充電スケジュール設定」ボタンを押す。

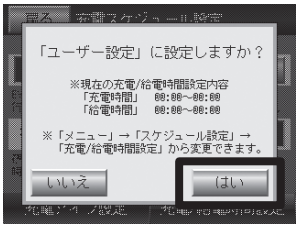


（3）「夜間電力利用」か「ユーザー設定」を選択する。
確認画面が出ますので、「はい」を押して確定する。

【夜間電力利用選択時】



【ユーザー設定選択時】

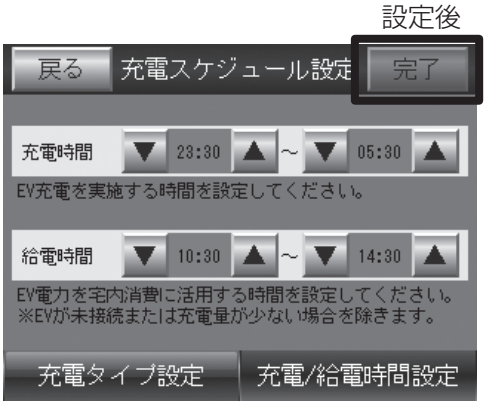


・夜間電力利用は、初期設定にて設定した夜間電力時間帯にＥＶ充電します。（P20 参照）

※夜間電力時間帯に充電が完了しない場合に、夜間電力時間帯を超えて充電を継続したい場合は、「夜間電力外充電」を「有効」に設定してください。(出荷設定は「無効」です。)
※「ユーザー設定」選択時は、「夜間電力外充電」は表示されません。

・ユーザー設定は、（4）項で設定した充電時間帯にＥＶ充電します。

〈工場出荷時〉
「充電タイプ設定」夜間電力利用
「夜間電力外充電」無効



(4)「充電 / 給電時間設定」ボタンを押し、充電時間と給電時間を設定する。

「▼」「▲」ボタンで時間を設定し、「完了」ボタンを押す。

※変更が無い場合は「完了」ボタンを押せないので、「戻る」ボタンを押してください。
※「充電時間」と「給電時間」は重複して設定することはできません。
※「充電時間」、「給電時間」以外は停止になります。
※充電をしない場合は、「充電時間」　00:00～00:00を設定してください。
※給電をしない場合は、「給電時間」　00:00～00:00を設定してください。
※24時間給電設定をしたい場合は、
「充電時間」　00:00～00:00
「給電時間」　00:00～24:00
を設定してください。
※給電時間設定はEV予約充電モードには適用されません。

〈工場出荷時〉
「充電時間」　00:00～00:00
「給電時間」　00:00～24:00

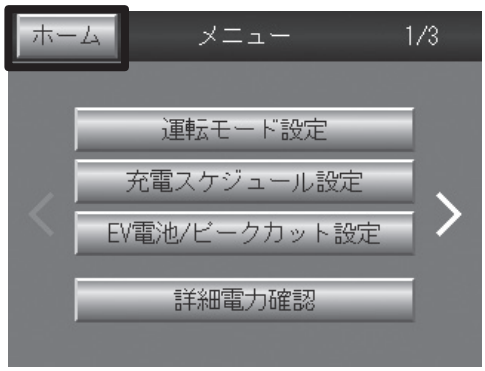
充電 / 給電時間設定の工場出荷設定値は、24 時間給電設定になっています。
「ユーザー設定」選択時は、お客様のシステム構成に応じて、充電 / 給電時間設定を変更してください。

〈充電/給電時間設定例〉

① エコノミーモードで、夜間の割安な時間帯にEV充電、それ以外は給電したい場合。
「充電時間」23：00 － 7：00
「給電時間」7：00 － 23：00

② グリーンモードで、PVの発電時間帯に合わせてEV充電、それ以外は給電したい場合。
「充電時間」10：00 － 17：00
「給電時間」17：00 － 10：00

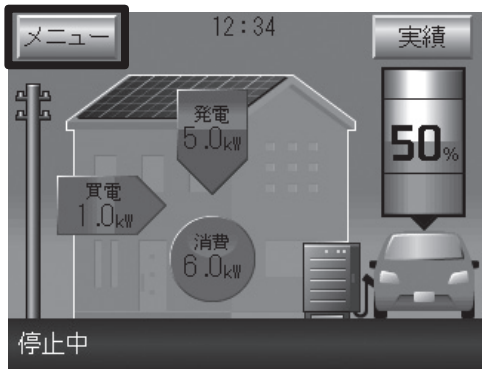
③ EV予約充電モードで、週末などにEVを使用するために、満充電にしておきたい場合。
「充電時間」23：00 － 7：00
「給電時間」設定値は無視されます。



(5) 以上で充電スケジュール設定は終了です。
「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻る。

4. ＥＶ充電 / ピークカット設定

ＥＶ電池の充電上限・下限値、および電力会社からの買電電力の目標上限値（ピーク）を設定します。



（1）「メニュー」ボタンを押す。

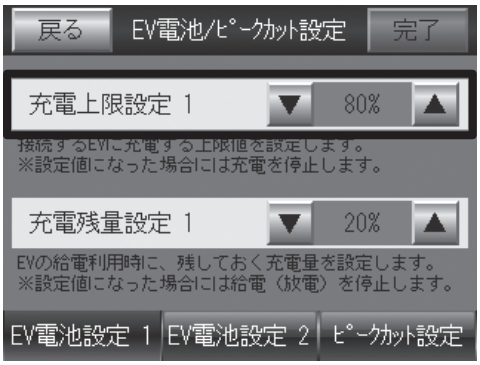
※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「ーー」で表示します。

【ＥＶ電池設定 1】

（2）「ＥＶ電池 / ピークカット設定」ボタンを押す。

ＥＶに充電する電力量を制限する

ＥＶに充電する電力量を制限したい場合は、「充電上限設定 1」を設定してください。ただし、ＥＶ給電動作で使用できる電力量が制限されます。



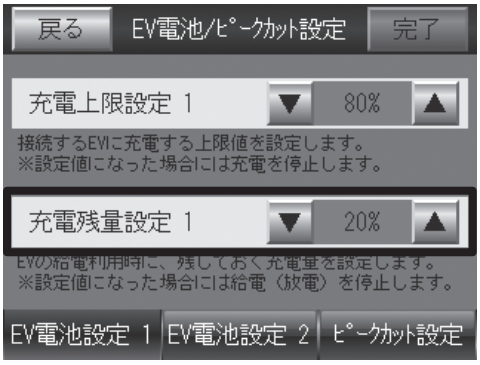
（3）「ＥＶ電池設定 1」ボタンを押し、「▲」「▼」ボタンで「充電上限設定 1」（5 ～ 100%）を設定する。

※「充電上限設定1」＞「充電残量設定1」になるように設定操作はブロックされます。
※「充電上限設定1」とEVが固有で持つ充電上限設定値との小さい方の設定が優先されます。

〈工場出荷時〉
「充電上限設定1」　100%

ＥＶが走行するための電力を残す

ＥＶが走行するための電力を残したい場合は、「充電残量設定 1」を設定してください。ただし、ＥＶ給電動作で使用できる電力量が制限されます。



（4）「▲」「▼」ボタンで「充電残量設定 1」（0 ～ 95%）を設定する。
設定後、「完了」ボタンを押す。

※「充電上限設定1」＞「充電残量設定1」になるように設定操作はブロックされます。
※「充電残量設定1」と、EVが固有で持つ充電残量設定値との大きい方の設定が優先されます。

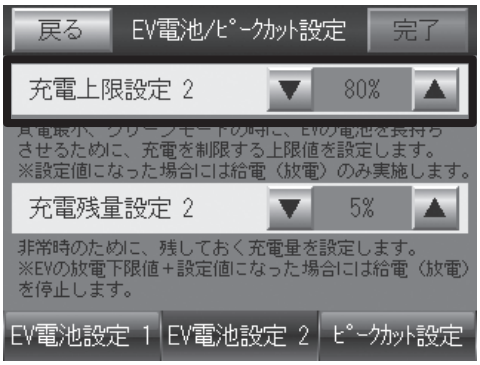
〈工場出荷時〉
「充電残量設定1」　0%

【ＥＶ電池設定２】

（5）「ＥＶ電池 / ピークカット設定」ボタンを押す。

ＥＶ電池を長持ちさせる

ＥＶの取扱説明書等にＥＶ電池を長持ちさせるための推奨設定があれば、その内容に従って「充電上限設定２」を設定してください。ただし、買電最小運転（グリーンモードの場合は「給電時間」動作時）で使用できる電力量が制限されます。推奨設定が特にない場合は、「充電上限設定２」を「充電上限設定１」と同じ値に設定してください。



（6）「ＥＶ電池設定２」ボタンを押し、「▲」「▼」ボタンで「充電上限設定２」（０～「充電上限設定１」）を設定する。

※「充電上限設定1」≧「充電上限設定2」になるように「充電上限設定2」の操作はブロックされます。

※「充電上限設定1」を下げても「充電上限設定2」の値でブロックされません。「充電上限設定1」を変更した場合は、必要に応じて、「充電上限設定2」を再設定してください。

※「充電上限設定1」と「充電上限設定2」とEVが固有で持つ充電上限設定値との小さい方の設定が優先されます。

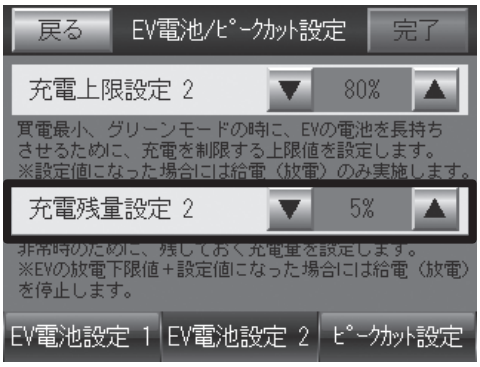
〈工場出荷時〉
「充電上限設定2」　80%

メモ

買電最小運転（グリーンモードの場合は「給電時間」動作時）はＰＶの発電電力や宅内消費電力の変動に従って充電と放電が頻繁に切り替わる場合があり、ＥＶ電池を長持ちさせるために、電池残量の上限値を個別に設定できるようにしています。

非常時の電力を残す

非常時（自立運転でＥＶ電池を使い切ったとき）のために残しておく電力量を設定します。非常時に、再び自立運転を開始したい場合は、「充電残量設定２」を０%に設定してください。
復電して通常使用に戻した後、「充電残量設定２」を元の設定に戻してください。。



（7）「▲」「▼」ボタンで「充電残量設定２」を設定する。設定後、「完了」ボタンを押す。

※通常使用する場合は初期設定の5%に設定することを推奨します。

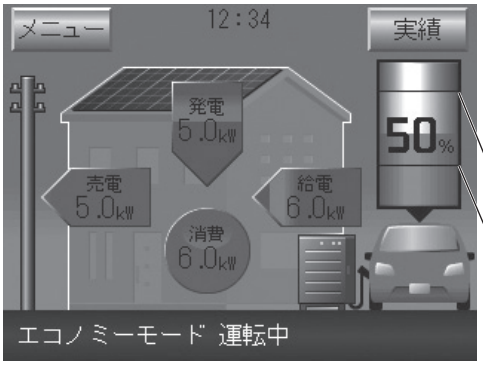
〈工場出荷時〉
「充電残量設定2」　5%

メモ

非常時に、「充電残量設定２」を０%に設定すると、再び自立運転を開始して、ＰＶの余った電力をＥＶに充電できるようになります。ＰＶが発電していないときに再び自立運転を開始すると、ＥＶ電池を使い切ってしまい、復電して再び充電するまで運転を再開できなくなります。

お願い

ＰＶ用パワーコンディショナが連携してＥＶに充電を開始するまでの間は、ＥＶから宅内負荷に給電しますので、できるかぎり宅内負荷を減らしてから自立運転を開始してください。



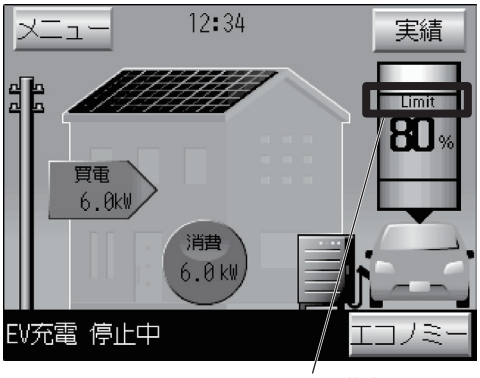
充電上限設定1

充電残量設定1

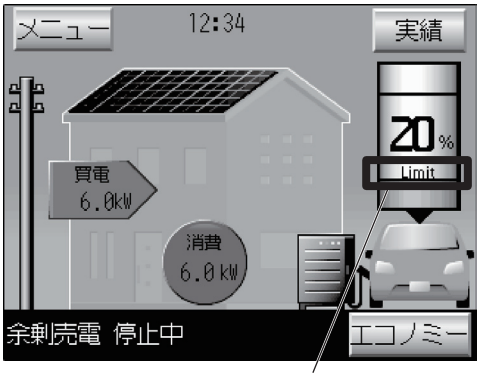
メモ

ＥＶ電池設定の「充電上限設定１」、「充電残量設定１」はリモコンのホーム画面のＥＶ電池残量表示の上下限領域として表示されます。

※ＥＶが固有で持つ充電上限設定値、充電残量設定値はリモコンの画面には表示されません。



ＥＶ満充電



ＥＶ不足充電

メモ

リモコンのホーム画面のＥＶ電池残量表示の上部（下部）に「Limit」が表示されたときは“ＥＶ満充電”（“ＥＶ不足充電”）の状態です。

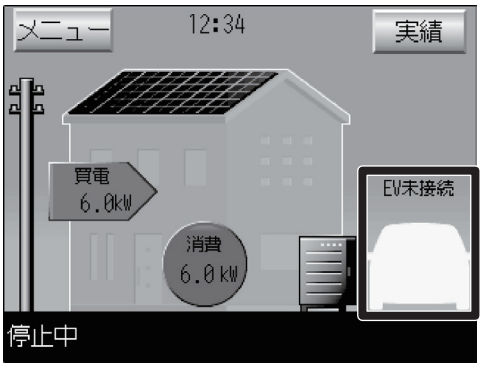
※ＥＶ電池残量が「充電上限設定１」またはＥＶが固有で持つ充電上限設定値より大きい場合、“ＥＶ満充電”となります。“ＥＶ満充電”のときは充電できません。

※ＥＶ電池残量が「充電残量設定１」またはＥＶが固有で持つ充電残量設定値＋「充電残量設定２」より小さい場合、“ＥＶ不足充電”となります。“ＥＶ不足充電”のときは給電できません。

※自立運転モードの場合は、“ＥＶ不足充電”になっても、急に停電させないために、しばらく給電を継続します。

※“ＥＶ満充電”になると、ＥＶ電池残量が約５％低下するまで“ＥＶ満充電”の状態を継続します。

※“ＥＶ不足充電”になると、ＥＶ電池残量が約５％上昇するまで“ＥＶ不足充電”の状態を継続します。



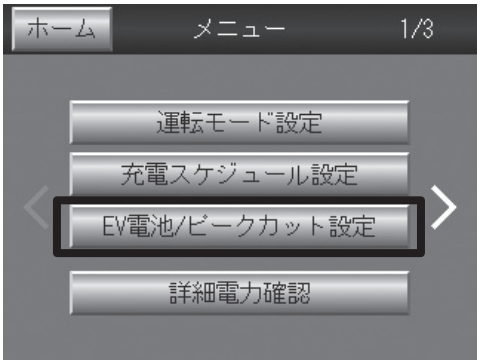
コネクタをＥＶから外すまでは、“ＥＶ満充電”、“ＥＶ不足充電”、“放電未対応”、ＥＶ電池残量など、ＥＶ固有の情報が保持されます。コネクタをＥＶから外すと、ＥＶ固有の情報がクリアされます。

メモ

ご使用の車種により、コネクタをＥＶから外してもＥＶ固有の情報がクリアされない場合があります。その場合は、エラー停止状態の解除（P65）の方法で、ＥＶ固有の情報をクリアできます。

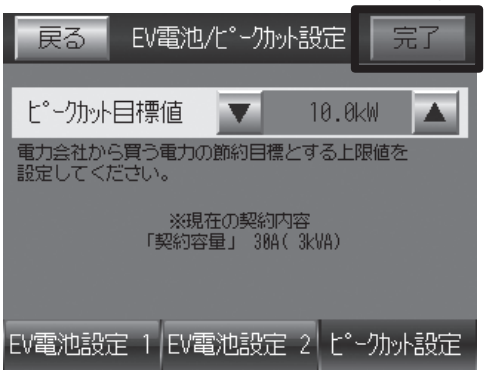
※ＥＶ固有の情報がクリアされないと、実際のＥＶ電池残量が低下していても、“ＥＶ満充電”が保持されて充電ができない場合があります。

【ピークカット設定】



(8)「ＥＶ電池 / ピークカット設定」ボタンを押す。

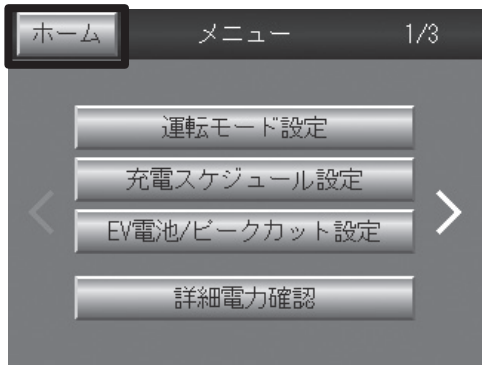
設定後



(9)「ピークカット設定」ボタンを押し、「▼」「▲」ボタンでピークカット目標値を設定して「完了」ボタンを押す。

・ピークカット目標値は、電力会社から買う電力の節約目標とする上限値を設定してください。
・本ピークカット目標値(kW)は、買電力の上限設定であり、ピークカット運転時にのみ有効です。
※変更が無い場合は「完了」ボタンを押せないので、「戻る」ボタンを押してください。
※ピークカット目標値は、電力会社から買う電力の「契約容量」を超えた設定はできません。「契約容量」(kVA)>「ピークカット目標値」(kW)になるように設定操作はブロックされます。
※初期設定の「契約容量」は「ピークカット目標値」により、設定操作はブロックされません。「契約容量」を下げた場合は、必要に応じて「ピークカット目標値」を再設定してください。

〈工場出荷時〉
「ピークカット目標値」　0.0kW



(10) 以上でＥＶ電池 / ピークカット設定は終了です。「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻ってください。

使いかた

⚠警告

コネクタを落下させない
感電、故障の原因になります。

ケーブルを無理に引っ張らない
感電、故障の原因になります。

夏に直射日光が当たっているときは手袋を着用する
やけどの原因になります。

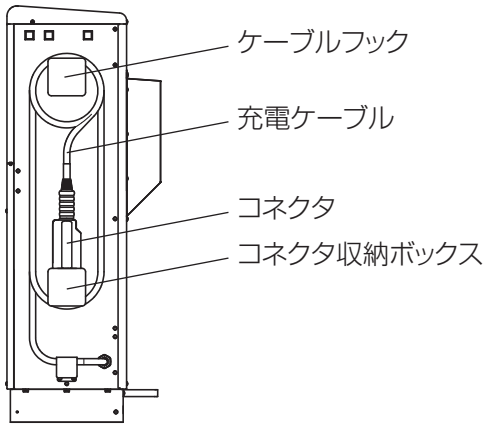
コネクタを無理に引っ張らない
感電、故障の原因になります。

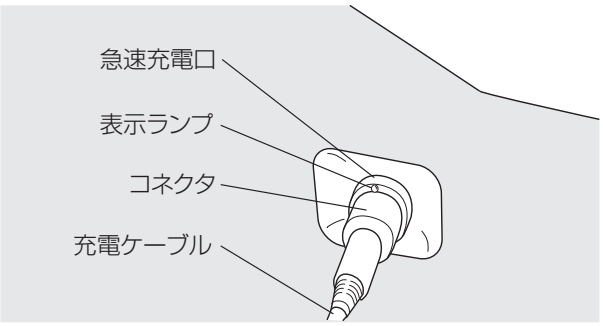
⚠注意

車両との接続中は、ケーブルを踏んだり、ケーブルの上に物を置いたりしない
ケーブルに足を引っ掛けないよう十分注意する
ケーブルが損傷し、火災や感電の原因となります。
ケーブルで足をつまずき、けがをするおそれがあります。

使用後、車両を移動するときは、ケーブルを放置しない
必ず側面のケーブル掛けに収納すること
ケーブルで足をつまずき、けがをするおそれがあります。

1. 車両に充電する





〔1〕車両とコネクタの接続

（1）車両がパーキング状態でスピードメーターが消灯していることを確認する。

（2）車両の充電口を開き急速充電口が見える状態にする。

（3）ＥＶ用パワーコンディショナ側面のコネクタ収納ボックスからコネクタを抜き、ケーブルをケーブルフックから丁寧に取りはずし車両の充電口までコネクタを移動させる。

お願い

コネクタを落とさないように注意してください。また、ケーブルを無理に引っ張らないようにし、ケーブルに足を引っ掛けないよう十分注意してください。

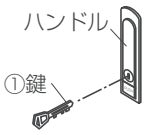
（4）コネクタの表示ランプを上にした状態で車両の急速充電口に「カチッ」とロックするまでしっかりと差し込む。

お願い

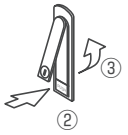
電気自動車の取扱いについては、電気自動車の取扱説明書をご参照ください。

鍵付ケーブルカバー（オプション）が取り付けられている場合は、下記要領にて開閉を行ってください。

■開けるとき



①ハンドルの鍵を開ける。

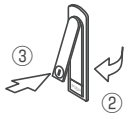


②「PUSH」ボタンを押してハンドルを引き出す。
③ハンドルを右に回し、カバーを開ける。

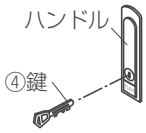
④ストッパーがかかるまで扉を開ける。

■閉めるとき

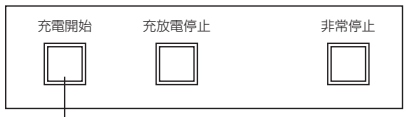
①ストッパーを外して扉を閉める。



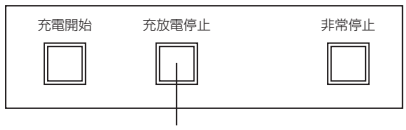
②ハンドルを左に回し、③ハンドルを収納する。



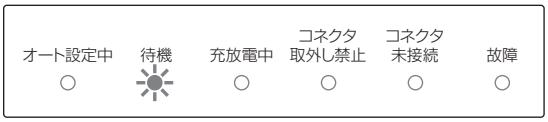
④ハンドルの鍵をかける。



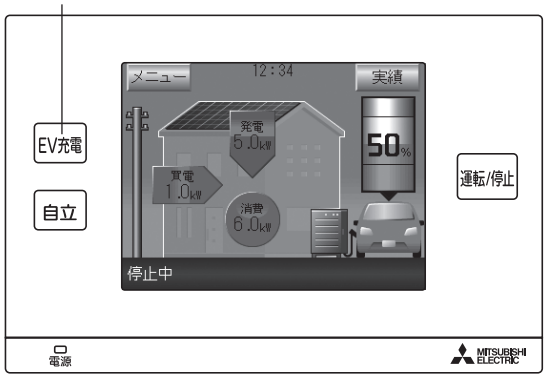
充電開始ボタン

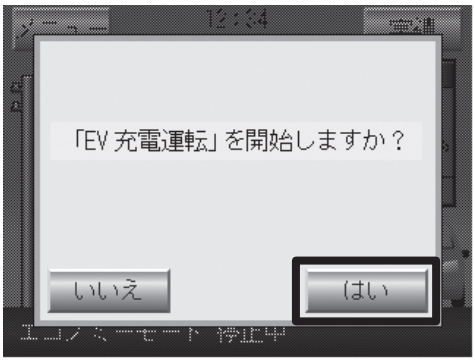


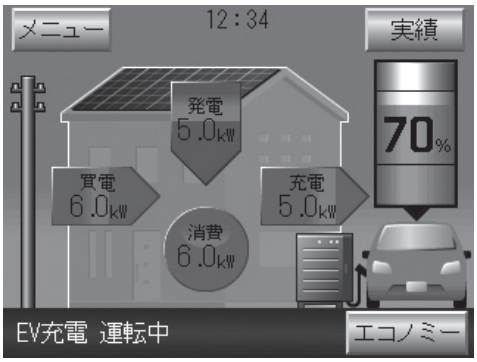
充放電停止ボタン



EV充電ボタン







〔2〕充電の開始と停止

充電の開始と停止は、ＥＶ用パワーコンディショナ本体およびリモコンにて操作できます。

【ＥＶ用パワーコンディショナで操作する場合】

充電を開始する。

（1）ＥＶ用パワーコンディショナ操作部の「充電開始ボタン」を押す。

（2）表示部の「充放電中」ランプと「コネクタ取外し禁止」ランプが点灯し、充電を開始します。

充電を停止する。

（1）ＥＶ用パワーコンディショナ操作部の「充放電停止」ボタンを押す。

（2）表示部の「充放電中」ランプと「コネクタ取外し禁止」ランプが消灯、「待機」ランプが点灯し、充電を停止します。

【リモコンで操作する場合】

充電を開始する。ＨＥＭＳ操作中は、リモコンでの運転ができません。特殊操作ボタンが「ＨＥＭＳ解除」と表示されているのでボタンを押した後に、ＥＶ充電運転操作をしてください。

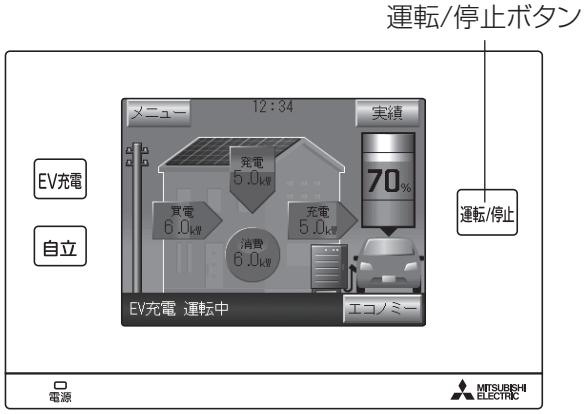
（1）コネクタを車両に接続してからリモコンの「ＥＶ充電」ボタンを押す。

※運転開始操作はホーム画面表示のみ有効です。
※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「−−」で表示します。

(2)「ＥＶ充電運転を開始しますか？」というポップアップ画面が現れますので、画面右下の「はい」を押す。

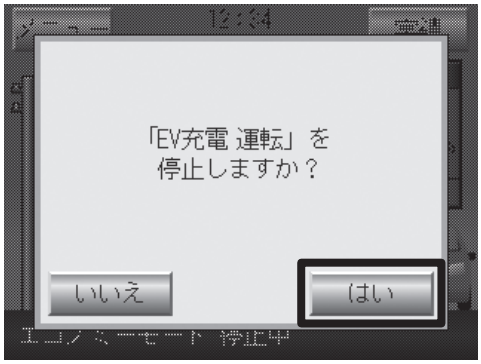
（3）充電動作が始まり、画面左下が「ＥＶ充電運転中」と表示されることを確認する。

（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）

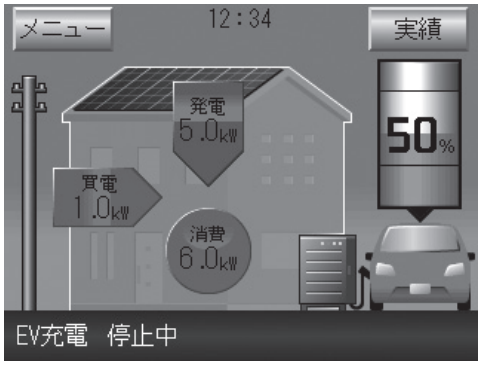


充電を停止する。

（1）「運転 / 停止」ボタンを押す。



（2）「EV 充電運転を停止しますか？」というポップアップ画面が現れますので、画面右下の「はい」を押す。



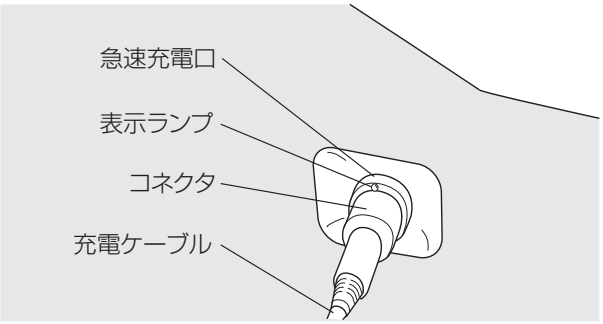
（3）充電動作が停止し、画面左下が「ＥＶ充電運転中」から「ＥＶ充電　停止中」となることを確認する。

（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。

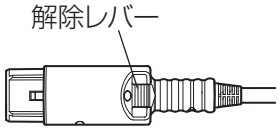
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。

※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「−−」で表示します。



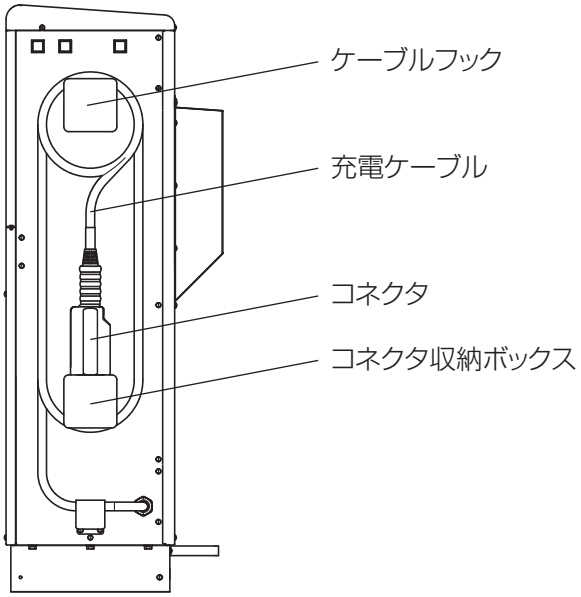
〔3〕コネクタの取りはずしと収納

（1）コネクタの表示ランプが消灯していることを確認してから、解除レバーを押しながらコネクタを急速充電口から引き抜く。



メモ

コネクタの表示ランプが点灯している間はコネクタを取りはずすことができません。EV 用パワーコンディショナの「充放電停止」ボタンを押して充放電を停止し、コネクタの表示ランプが消灯したことを確認してから取りはずしてください。



（2）取りはずしたコネクタは、コネクタを持ちながら充電ケーブルを EV 用パワーコンディショナのケーブルフックとコネクタ収納ボックスに巻き、コネクタをコネクタ収納ボックスに収める。

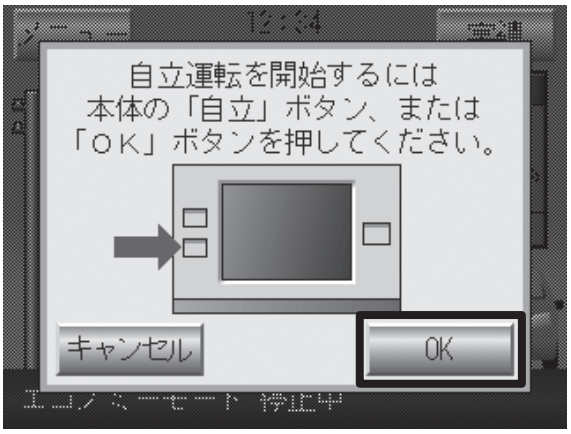
お願い

はずしたコネクタは、地面に放置せず必ず EV 用パワーコンディショナに収納してください。

放置した状態にしておきますと、充電ケーブルに足を引っ掛けてけがをしたり、車両がコネクタに乗り上げてコネクタを破損するおそれがあります。

2. 自立運転をする

本システムは停電が発生した場合、ＥＶの蓄電池を使用して住宅内の負荷に電力を供給する自立運転をすることができます。なお、自立運転は停電時だけでなく、系統が正常な場合においても、運転させることができますが、自立運転への切り替え時には、一時的（約 10 秒間）に宅内が停電しますので、ご注意ください。



〔1〕自立運転を開始する

（1）停電が発生した場合、リモコンの画面に『「自立運転」を開始しますか？』というポップアップ画面が表示され、ボタンランプ３箇所点滅、ブザー警告音が鳴ります。

※工場出荷時のブザー音量は「切」になっています。（P20 参照）

※無操作状態で約５分経過すると、画面消灯し、ブザー警告音も停止しますので、その場合は、画面をタッチして再点灯させてください。

※ＨＥＭＳ操作中はリモコンでの運転ができません。特殊操作ボタンが「ＨＥＭＳ解除」と表示されているので、ボタンを押した後に自立運転操作をしてください。

（2）リモコン本体の「自立」ボタン、または、画面右下の「ＯＫボタン」を押す。

ポップ画面が消え、ブザー警告音も停止します。

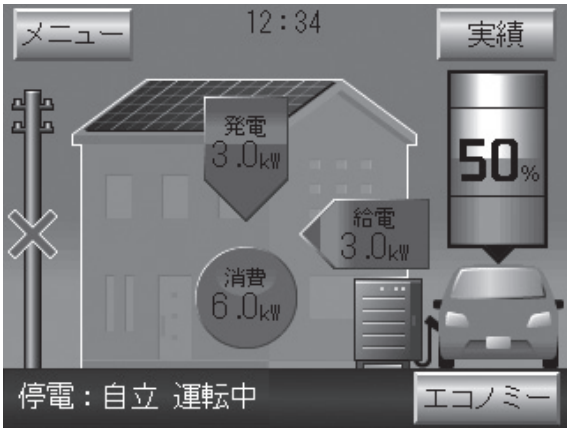
しばらく（約 10 秒）すると、ＥＶ用パワーコンディショナが起動し、住宅内負荷に電力が供給されます。

※宅内の照明が点灯することでＥＶ用パワーコンディショナが自立運転していることが確認できます。

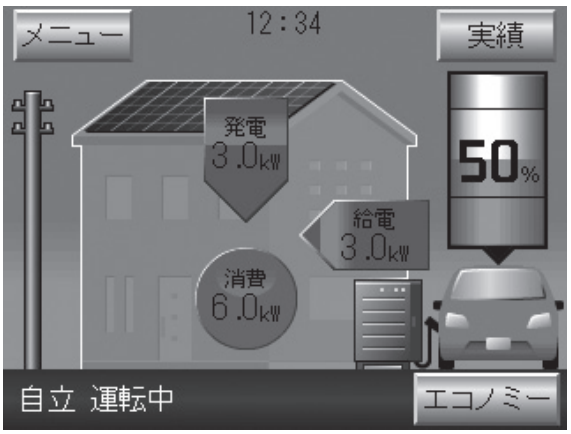
※商用系統停電時はリモコン画面の電柱に、停電を示す×印のアイコンが表示されます。また、リモコンには給電のアイコンが表示されます。

※画面左下が「停電：自立　運転中」と表示されていることを確認してください。

停電時



系統正常時



※系統が正常な場合は、リモコンの自立ボタンを押し、ポップアップ画面の「はい」を押すと自立運転を開始します。

メモ

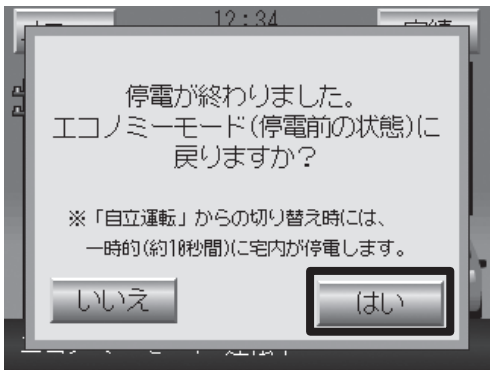
・PV が接続されている場合は、PV からの発電電力も住宅内負荷に供給されます。PV の発電で余剰電力が発生した場合は EV に充電します。

・ＥＶが接続されていない場合は、自立運転に移行できません。

・ＥＶの蓄電池容量が少ないときは自立運転ができないことがあります。

お願い

停電が発生してから自立運転に切替えるまでは、ＥＶ用パワーコンディショナに内蔵しているバッテリによって制御回路が動作しています。長時間の停電が継続し、長時間、自立運転への切替え操作が行われない場合は、内蔵バッテリの容量が減り、自立運転が行えなくなることがありますので、停電が発生してから自立運転への切替え操作はなるべく早く実施してください。



〔2〕自立運転を停止する。（停電前運転への切替え操作）

（1）自立運転中に復電した場合、停電が終わったことを示す復電のポップアップ画面がリモコンに表示され、ボタンランプ３箇所点滅、ブザー警告音が鳴ります。

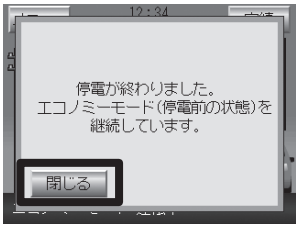
※工場出荷時のブザー音量は「切」になっています。（P20 参照）

※無操作状態で約５分経過すると、画面消灯し、ブザー警告音も停止しますので、その場合は、画面をタッチして再点灯させてください。

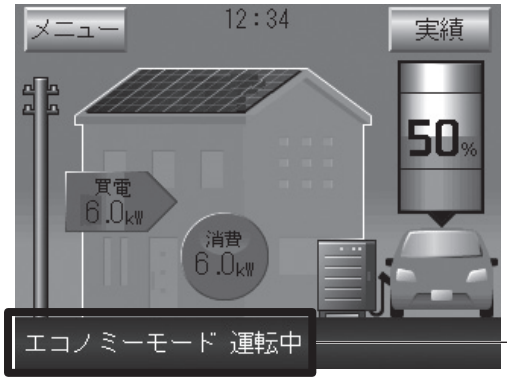
（2）画面右下の「はい」を押す。ポップ画面が消え、ブザー警告音も停止します。

メモ

停電時に自立運転せずに運転停止中（停電）の状態で、復電した場合は、替わりに下記ポップアップが表示されるので、「閉じる」ボタンを押してください。



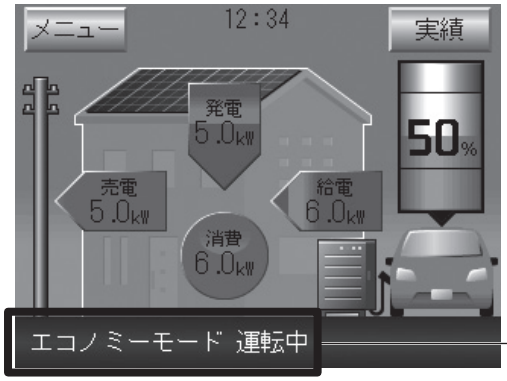
※画面は、停電前の状態がエコノミーモードの場合の表示例です。
運転モード名は、停電前の運転モードが表示されます。



点滅表示

（3）自立運転していたＥＶ用パワーコンディショナが一旦停止し、住宅内の照明が消灯します。約 10 秒後に商用系統が接続され、住宅内の照明が点灯します。（系統接続）

※このとき EV 用パワーコンディショナは運転準備中で、「エコノミーモード　運転中」の文字は点滅しています。



点灯表示

（4）系統接続後、しばらくすると、ＥＶ用パワーコンディショナが運転を開始し停電前の運転モードに復帰します。

※復電後、系統連系接続の規定により、EV用パワーコンディショナの運転は約5分程度待ってから再開されます。

お願い

停電前の状態にするためにポップアップ画面で「はい」をタッチするとＥＶ用パワーコンディショナの自立運転出力が停止し住宅内の負荷への電力供給が約 10 秒停止します。

パソコン等を使用している時はパソコンを終了させてからリモコン画面の「はい」をタッチするよう注意願います。

3. いろいろな使いかた

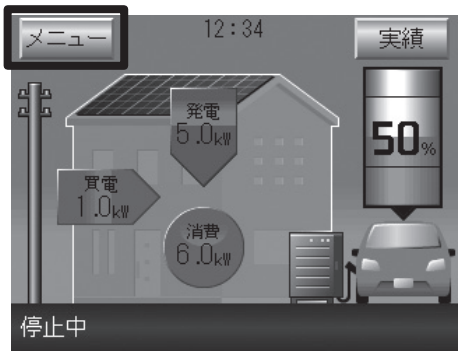
ＥＶ用パワーコンディショナでは、さまざまな運転モードをお選びいただけます。
それぞれの運転の特長は、5 ページの「さまざまな運転モード」をご覧ください。
説明の画面は EVP-SS60A-M5，-M7 の場合です。EVP-SS60A-Y5，-Y7 はメニュー画面説明（ P15 参照）をご覧ください。

※ HEMS 操作中はリモコンでの運転ができません。特殊操作ボタンが「HEMS 解除」と表示されているので、ボタンを押した後に各運転操作をしてください。

〔1〕エコノミーモード

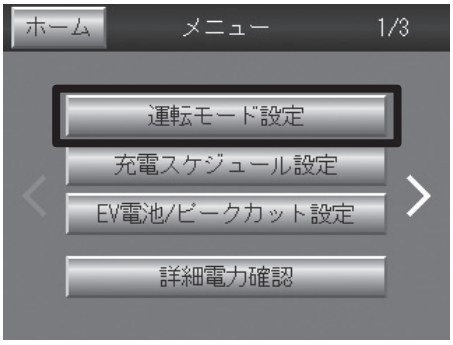
夜間はＥＶに充電、昼間はＥＶから給電するピークシフトで、経済性を優先するモードです。

昼間の使用電力量が多いご家庭や太陽光発電システムの売電量を増やしたい場合に選択します。

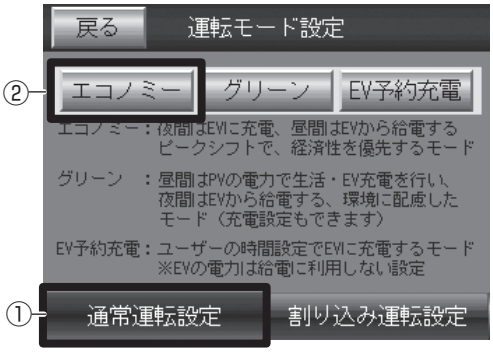


（1）「メニュー」ボタンを押す。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「−−」で表示します。



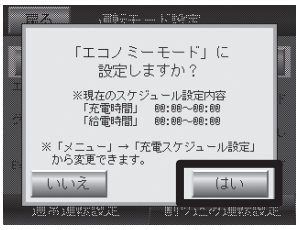
（2）「運転モード設定」ボタンを押す。

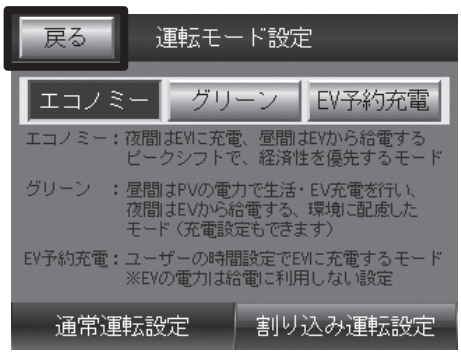


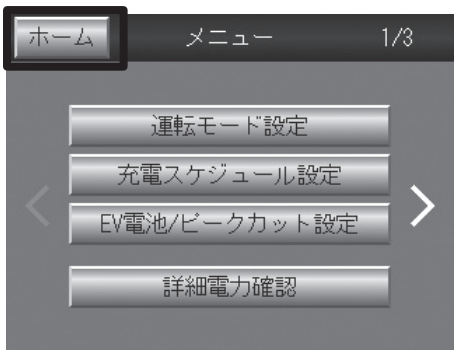
※既に運転モードが設定されている場合、その運転モードボタンは押せません。

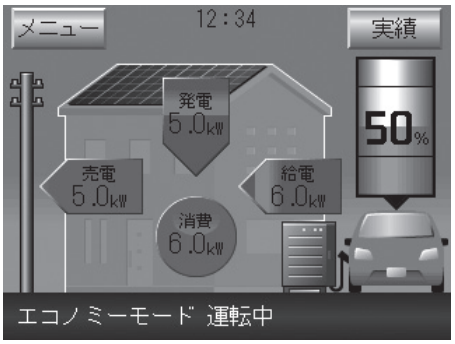
（3）「通常運転設定」ボタンを押し、「エコノミー」ボタンを押す。確認画面が出ますので、予め設定した充電時間 / 給電時間を確認後、「はい」を押して確定する。

※充電時間 / 給電時間を変更する場合は、一旦「いいえ」を押して、「戻る」→「充電スケジュール設定」から変更後、再度エコノミーモードを設定してください。（設定方法は P24 参照）









（4）以上で運転モードの切り替えは終了です。
「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻って、画面左下が「エコノミーモード　運転中」と表示されていることを確認してください。（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）

※エコノミーモードが開始されると、予め設定した充電時間帯でＥＶ充電動作、給電時間帯でＥＶ給電動作、それ以外は停止します。（ユーザー設定のスケジュール運転の場合）

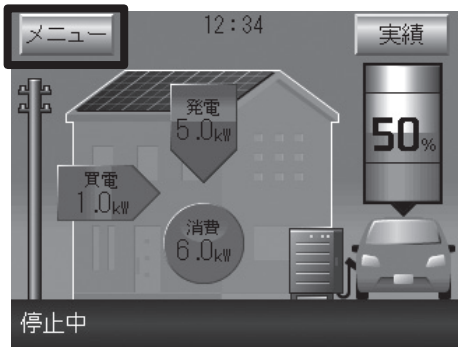
ＥＶ給電動作

売電最大運転相当：買電を最小にするように、宅内負荷をＥＶ給電でまかないます。
押し上げされたＰＶの発電電力は売電します。（EVP-SS60A-M5, -M7 のみ）
余剰売電運転相当：買電を最小にするように、宅内負荷をＥＶ給電でまかないます。
但し、ＰＶ発電で余剰電力が発生した場合は、ＥＶ給電を停止し、ＰＶの余剰電力を売電します。

〔2〕グリーンモード

昼間はＰＶの電力で生活・ＥＶ充電を行い、夜間はＥＶからの給電を主な電力源とすることで、エネルギーの自給自足を目指す環境に配慮したモードです。

購入電力量ゼロを目指す場合に選択します。

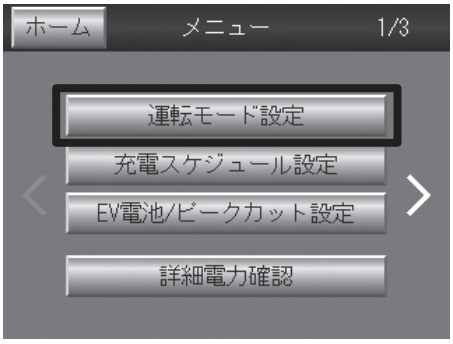


（1）「メニュー」ボタンを押す。

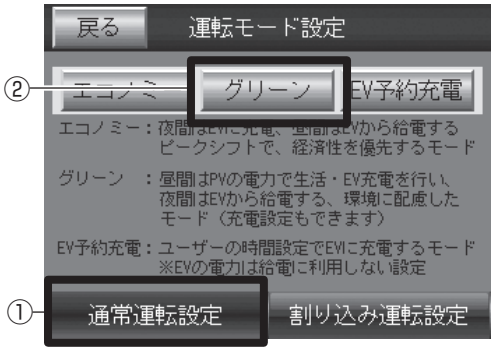
※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。

※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。

※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「−−」で表示します。



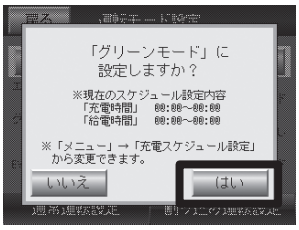
（2）「運転モード設定」ボタンを押す。

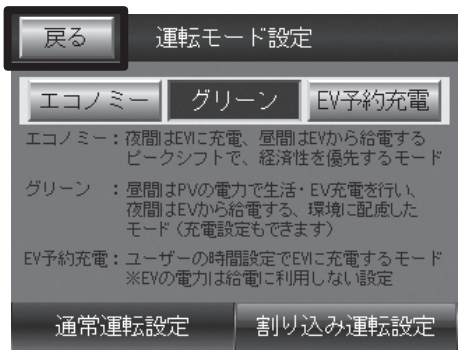


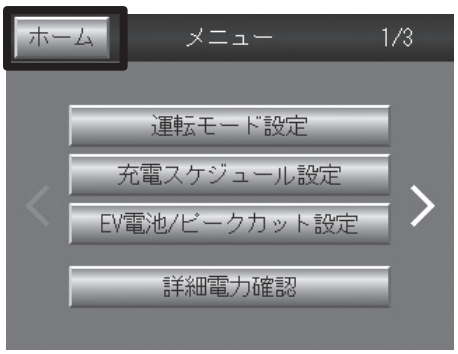
※既に運転モードが設定されている場合、その運転モードボタンは押せません。

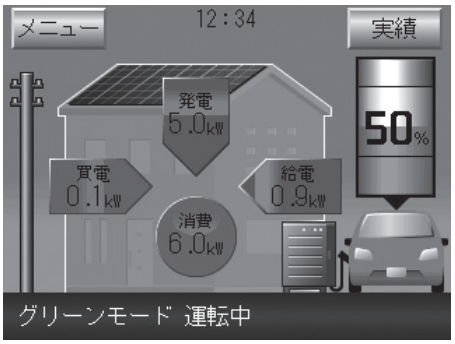
（3）「通常運転設定」ボタンを押し、「グリーン」ボタンを押す。確認画面が出ますので、予め設定した充電時間 / 給電時間を確認後、「はい」を押して確定する。

※充電時間 / 給電時間を変更する場合は、一旦「いいえ」を押して、「戻る」→「充電スケジュール設定」から変更後（P24 参照）、再度グリーンモードを設定する。









（4）以上で運転モードの切り替えは終了です。
「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻って、画面左下が「グリーンモード　運転中」と表示されていることを確認する。（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）

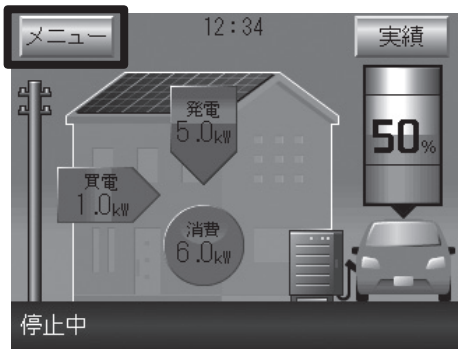
グリーンモードが開始されると、予め設定した充電時間帯でＥＶ充電動作、給電時間帯でＥＶ給電動作、それ以外は停止します。（ユーザー設定のスケジュール運転の場合）

ＥＶ給電動作

買電を最小にするように、宅内負荷をＥＶ給電でまかないます。但し、ＰＶ発電で余剰電力が発生した場合は、ＥＶ充電します。

〔3〕ＥＶ予約充電モード

お客様の設定した時間にＥＶに充電するモードです。ＥＶの電力は給電には使用されません。

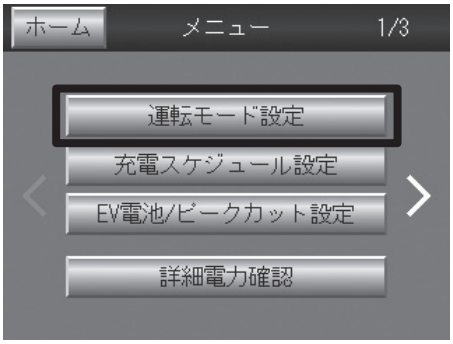


（1）「メニュー」ボタンを押す。

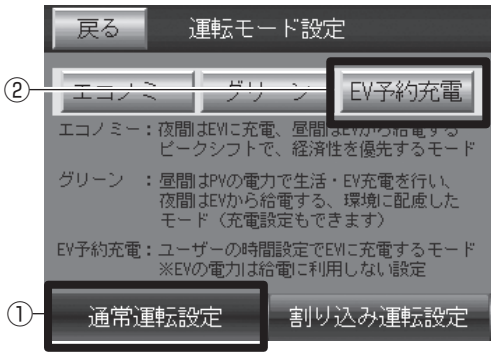
※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。

※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。

※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「−−」で表示します。



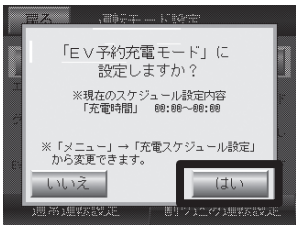
（2）「運転モード設定」ボタンを押す。

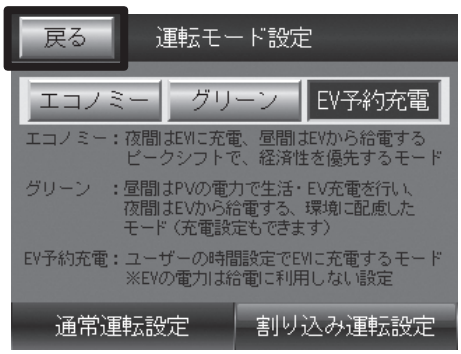


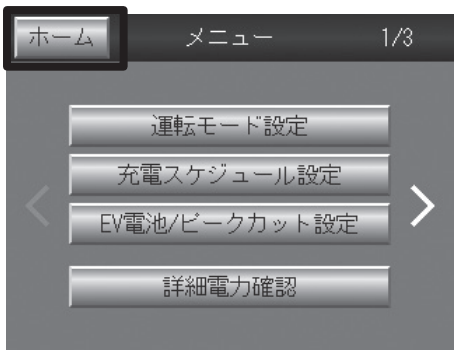
※既に運転モードが設定されている場合、その運転モードボタンは押せません。

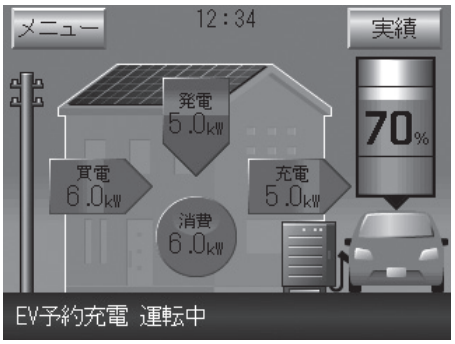
（3）「通常運転設定」ボタンを押し、「ＥＶ予約充電」ボタンを押す。確認画面が出ますので、予め設定した充電時間を確認後、「はい」を押して確定する。

※充電時間を変更する場合は、一旦「いいえ」を押して、「戻る」→「充電スケジュール設定」から変更後（P24 参照）、再度ＥＶ予約充電モードを設定する。







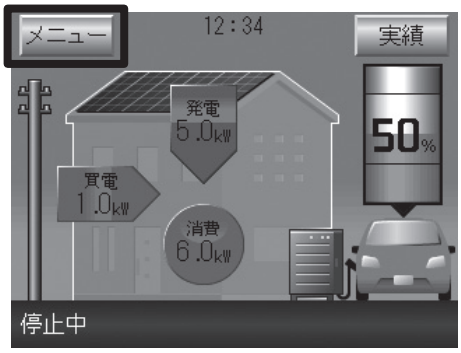


（4）以上で運転モードの切り替えは終了です。
「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻って、画面左下が「ＥＶ予約充電　運転中」と表示されていることを確認する。（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）

ＥＶ予約充電モードが開始されると、予め設定した充電時間帯でＥＶ充電動作、それ以外は停止します。（ユーザー設定のスケジュール運転の場合）

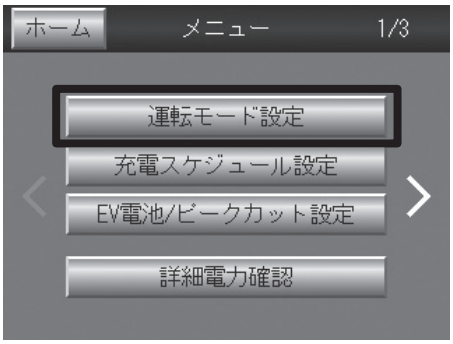
〔4〕売電最大運転（EVP-SS60A-M5，-M7 のみ）

宅内の電力はＥＶからの電力を優先し、ＰＶの売電を優先するモードです。

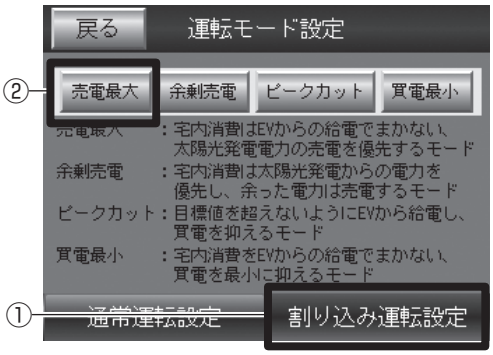


（1）「メニュー」ボタンを押す。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「−−」で表示します。

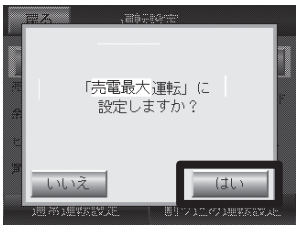


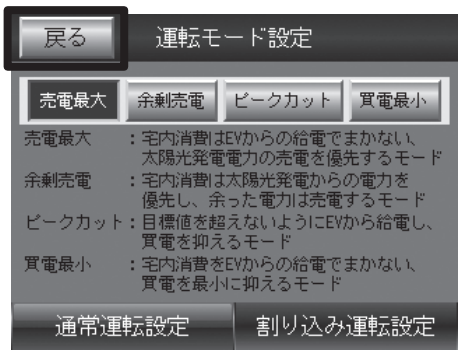
（2）「運転モード設定」ボタンを押す。

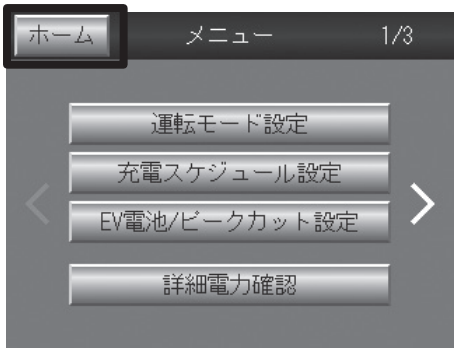


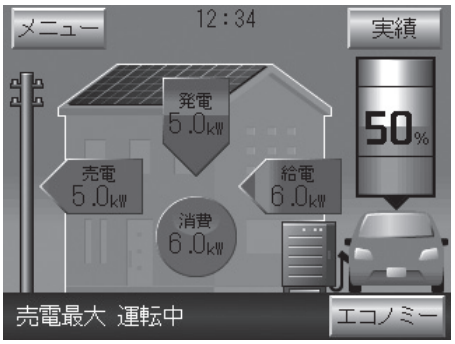
※EVP-SS60A-Y5,-Y7は「売電最大」ボタンが表示されません。
※既に運転モードが設定されている場合、その運転モードボタンは押せません。

（3）「割り込み運転設定」ボタンを押し、「売電最大」ボタンを押す。確認画面が出ますので、「はい」を押して確定する。







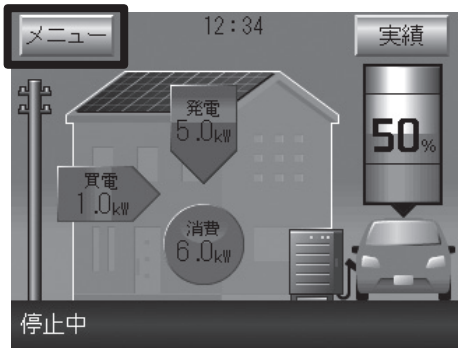


（4）以上で運転モードの切り替えは終了です。
「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻って、画面左下が「売電最大　運転中」と表示されていることを確認する。（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）

※売電最大運転が開始されると、宅内負荷の電力は優先的にＥＶ給電でまかないます。押し上げされたＰＶの発電電力は売電します。（EVP-SS60A-M5，-M7 のみ）

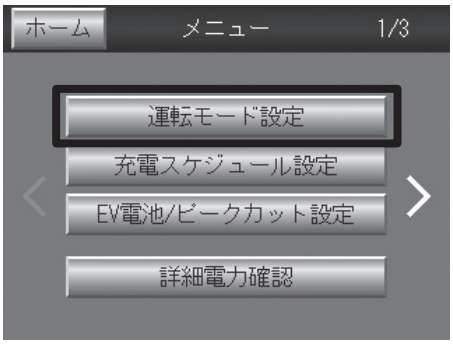
〔5〕余剰売電運転

宅内の電力はＰＶからの電力を優先し、余った電力を売電するモードです。

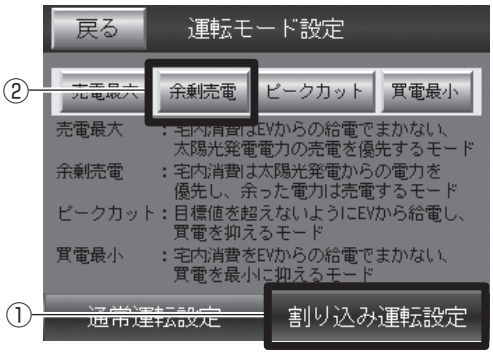


（1）「メニュー」ボタンを押す。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「ーー」で表示します。

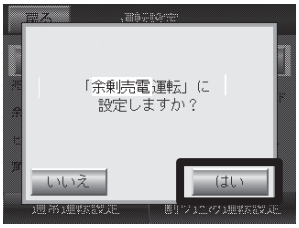


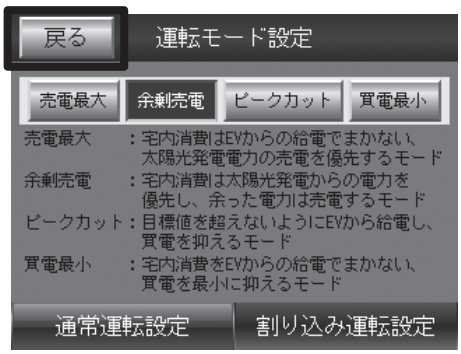
（2）「運転モード設定」ボタンを押す。

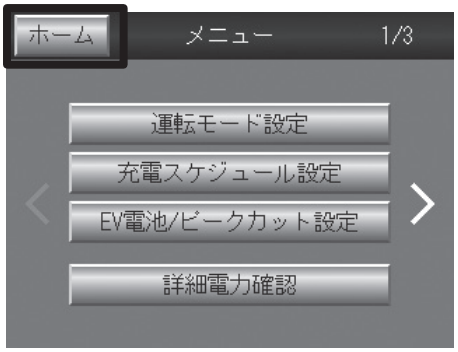


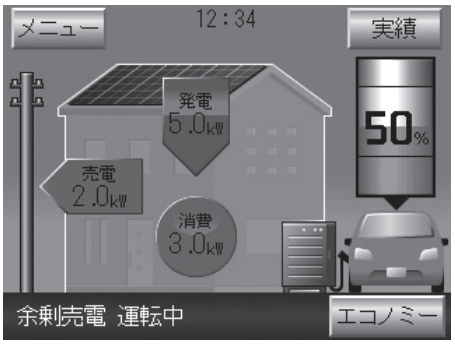
※既に運転モードが設定されている場合、その運転モードボタンは押せません。

（3）「割り込み運転設定」ボタンを押し、「余剰運転」ボタンを押す。確認画面が出ますので、「はい」を押して確定する。









（4）以上で運転モードの切り替えは終了です。
「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻って、画面左下が「余剰売電　運転中」と表示されていることを確認する。（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）

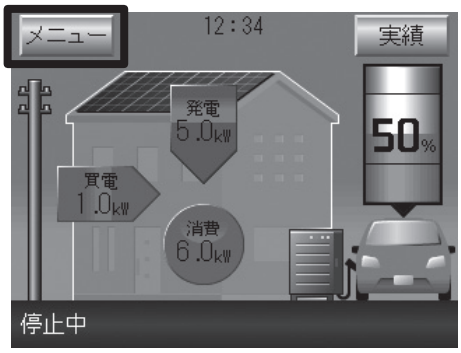
※余剰売電運転が開始されると、宅内負荷の電力は優先的にPV電力でまかない、足りない電力をＥＶ給電でまかないます。ＰＶ発電で余剰電力が発生した場合は、ＥＶ給電を停止し、ＰＶの余剰電力を売電します。

お知らせ

ダブル発電機種で運転モードを「余剰売電」に設定された場合でも、ダブル発電機種の売電単価は変わりません。

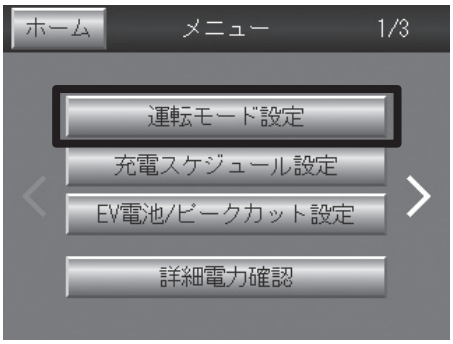
〔6〕ピークカット運転

「ＥＶ電池 / ピークカット設定」で設定したピークカット目標値を超えないようにＥＶから給電し、買電を抑えるモードです。

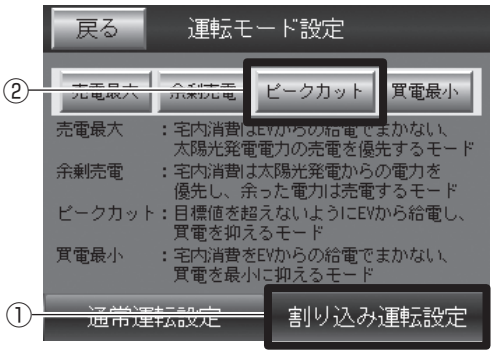


（1）「メニュー」ボタンを押す。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「−−」で表示します。

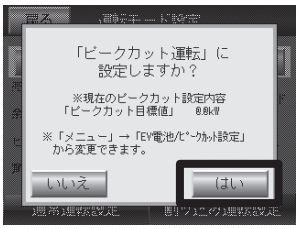


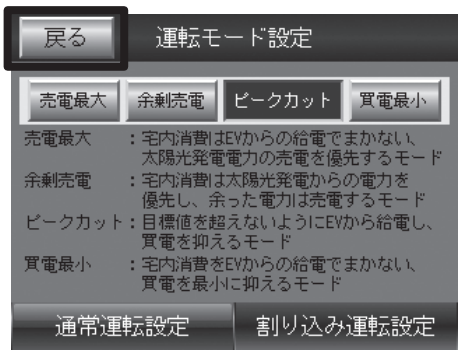
（2）「運転モード設定」ボタンを押す。

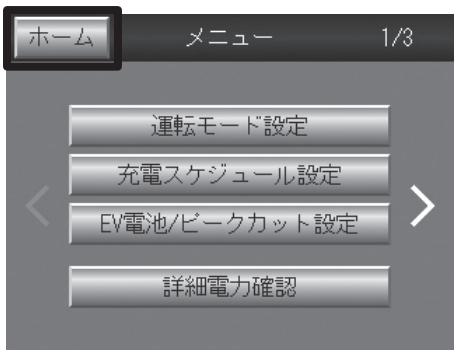


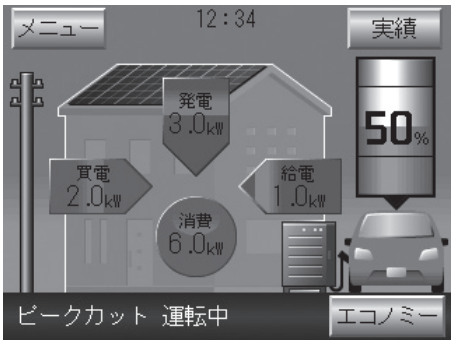
※既に運転モードが設定されている場合、その運転モードボタンは押せません。

（3）「割り込み運転設定」ボタンを押し、「ピークカット」ボタンを押す。
確認画面が出ますので、「はい」を押して確定する。





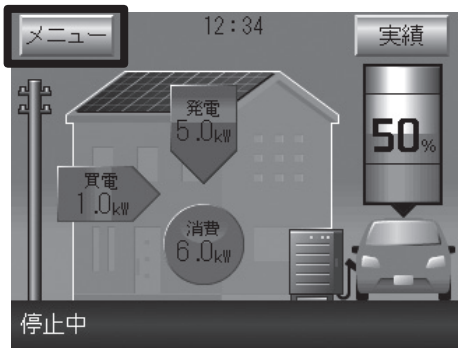




（4）以上で運転モードの切り替えは終了です。
「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻って、画面左下が「ピークカット　運転中」と表示されていることを確認してください。（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）
ピークカット運転が開始されると、買電を予め設定したピークカット目標値を超えないように、宅内負荷をＥＶ給電でまかないます。

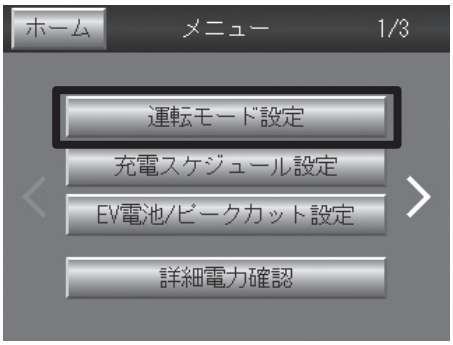
〔7〕買電最小運転

宅内消費電力をＰＶやＥＶからの給電でまかない、買電を最小に抑えるモードです。

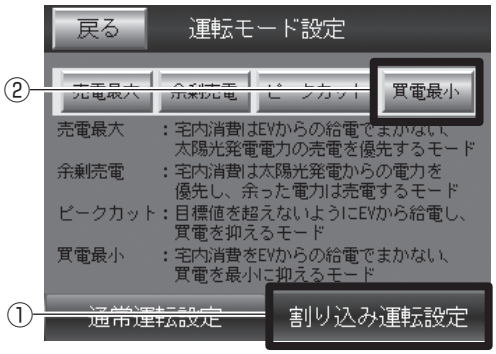


（1）「メニュー」ボタンを押す。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「−−」で表示します。

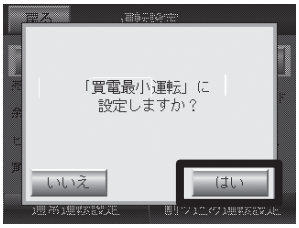


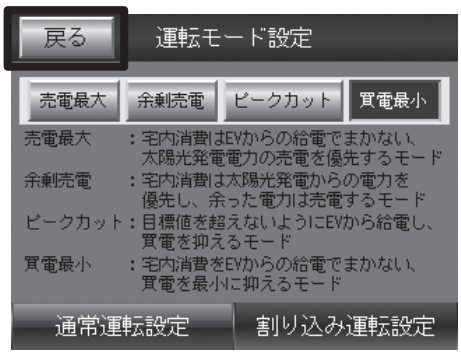
（2）「運転モード設定」ボタンを押す。

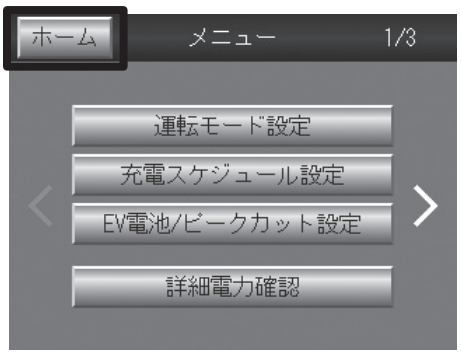


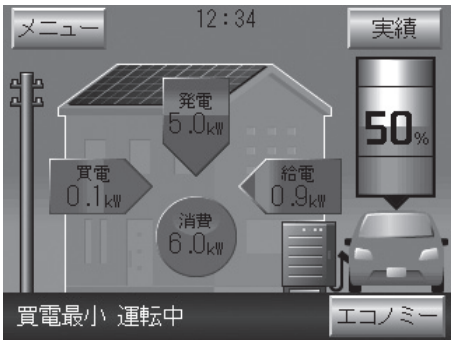
※既に運転モードが設定されている場合、その運転モードボタンは押せません。

（3）「割り込み運転設定」ボタンを押し、「買電最小」ボタンを押す。
確認画面が出ますので、「はい」を押して確定してください。









（4）以上で運転モードの切り替えは終了です。
「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻って、画面左下が「買電最小　運転中」と表示されていることを確認してください。（文字が点滅している間は、運転状態がまだ過渡状態で運転変更が完了していません）

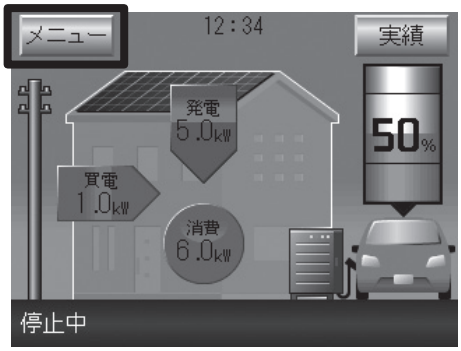
※買電最小運転が開始されると、宅内負荷の電力は優先的にPV電力でまかない、足りない電力をＥＶ給電でまかないます。ＰＶ発電で余剰電力が発生した場合は、ＥＶ充電します。

〔8〕詳細電力確認

各種積算電力量の状況をグラフや数値で表示します。

「日」は７日前（８日分）、「月」は３か月前（３ヶ月分）、「年」は３年前（３年分）まで表示できます。

説明の画面はダブル発電機種のメニューです。非ダブル発電機種のメニューは、メニュー画面説明の項をご参照ください。



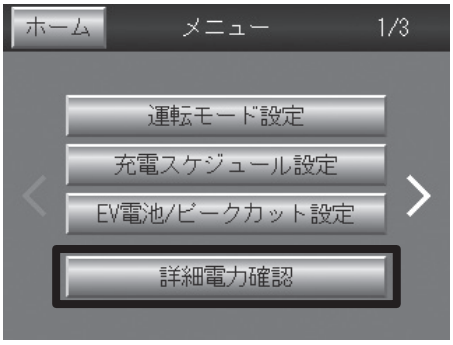
（1）「メニュー」ボタンを押す。

※ホーム画面の「実績」ボタンを押しても「詳細電力確認」画面を表示が表示されます。

※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。

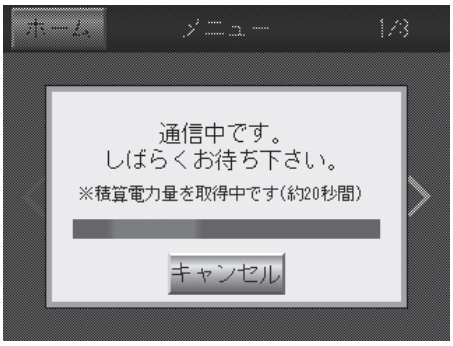
※“EV接続状態”が検出できない時は白抜車画像になります。

※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「ーー」で表示します。



（2）「詳細電力確認」ボタンを押す。

※「詳細電力確認」画面を表示するには約20秒程度かかります。



（3）「日」、「月」、「年」のいずれかのタグボタンを押して、確認したい各積算電力量の状況を表示する。
グラフ表示画面で「数値」ボタンを押すと数値が表示され、数値表示画面で「グラフ」ボタンを押すとグラフが表示されます。
「戻る」ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。（「実績」ボタンで開いた場合はホーム画面に戻ります）

「日」は０時～ 23 時の時間単位で表示されます。
「月」は１日～ 31 日（または 28,29,30）の日単位で表示されます。
「年」は１月～ 12 月の月単位で表示されます。

※ 詳細電力確認の数値表示において、
「日」の時間単位の合算値と1日の積算値、
「月」の日単位の合算値と1ヶ月の積算値、
「年」の月単位の合算値と1年の積算値は、
表示上丸め誤差により、一致しない場合があります。

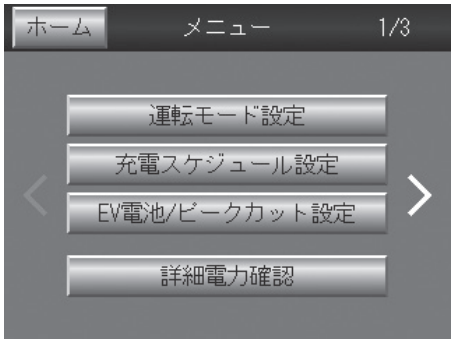
使いかた　つづき

〈グラフ〉

·PVの発電量が棒グラフで表示されます。
·宅内家電の消費電力量が棒グラフで表示されます。
·買電/売電の合算電力量が折れ線グラフで表示されます。
·給電/充電の合算電力量が折れ線グラフで表示されます。

〈数値〉

·PVの発電量、宅内家電の消費電力量、買電/売電合算の電力量、給電/充電合算の電力量がその日(月、年)の合計値(積算値)とともに数値で、表示されます。
·買電/売電の合算電力量、給電/充電の合算電力量の欄は、収支表示のため、例えば、買電/売電の合算電力量の場合、収支が買電側であれば、買電欄、収支が売電側であれば、売電欄に表示されます。
·各積算電力量データは30分毎に更新されますが、画面表示は「詳細電力確認画面」を開くタイミングでデータ収集し、1回表示のため、例えば、「日」の数値表示は、
　22:00～22:29で開いた場合、22時の欄は00表示
　22:30～22:59で開いた場合、22時の欄は22:00～22:30の積算値表示
　23:00以降で開いた場合、22時の欄は22:00～23:00の積算値表示
となります。

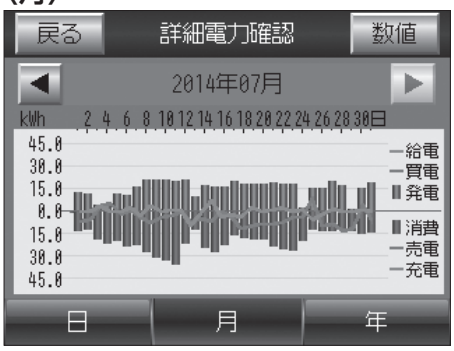


（4）「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻ってください。

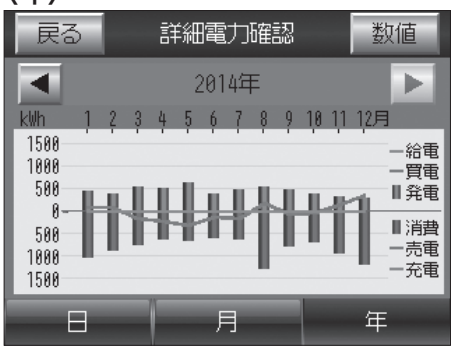
■グラフ表示イメージ

〈日〉

〈月〉



〈年〉



■数値表示イメージ

〈日〉

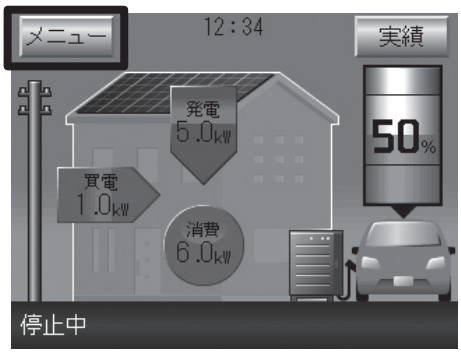
〈月〉

〈年〉

〔9〕システム履歴 / 機器情報確認

故障時のシステム履歴情報、機器情報の表示や、太陽光システムの接続 / 未接続設定を行います。

説明の画面はダブル発電機種のメニューです。非ダブル発電機種のメニューは、メニュー画面説明の項をご参照ください。



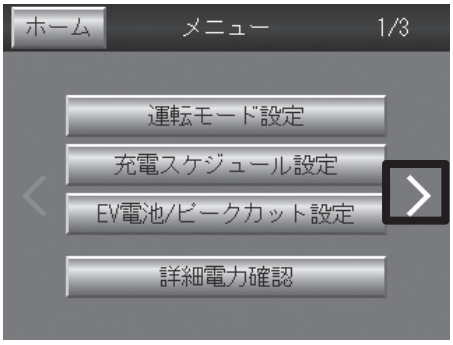
（1）「メニュー」ボタンを押す。

※ホーム画面の「実績」ボタンを押しても「詳細電力確認」画面を表示が表示されます。

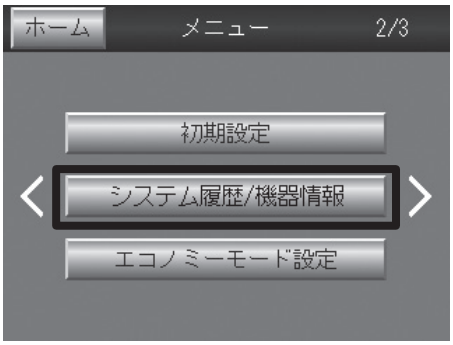
※買電／売電電力表示、住宅内消費電力表示、PV発電電力表示、EV給電／充電電力表示は、各電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。

※"EV接続状態"が検出できない時は白抜車画像になります。

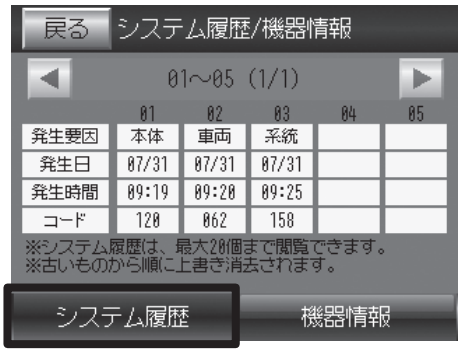
※EV電池残量表示はEVから値を取得できない場合は、「ーー」で表示します。



（2）「>」を押す。



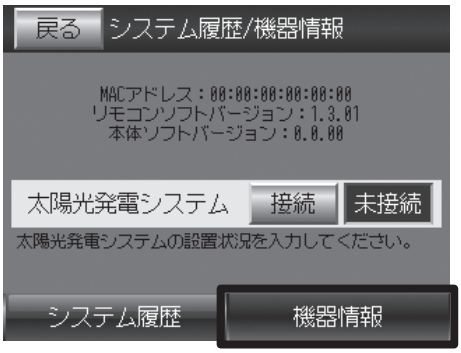
（3）「システム履歴 / 機器情報」ボタンを押す。



（4）「システム履歴」ボタンを押すとシステム履歴が表示されます。

※システム履歴は最大20個まで表示され、20個を超えた場合は古いものから削除されます。

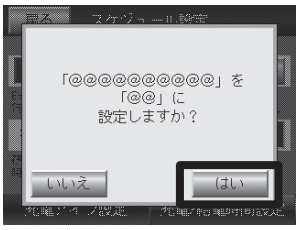
※「<」「>」ボタンでページが移動します。



(5)「機器情報」ボタンを押すと機器情報が表示されます。
また、太陽光発電システムの接続 / 未接続を設定する場合は、「接続」、「未接続」ボタンを押してください。

※EV用パワーコンディショナ本体にPV用パワーコンディショナ出力を接続する場合は「接続」ボタンを押してください。接続しない場合は「未接続」ボタンを押してください。

確認画面が出ますので、「はい」を押して確定してください。



@表記
・「太陽光発電システム」を「接続」に設定しますか?
・「太陽光発電システム」を「未接続」に設定しますか?

(6)「戻る」ボタン、「ホーム」ボタンを押して、ホーム画面に戻ってください。

太陽光発電システム「接続」の場合は、ホーム画面の家の屋根のPVパネルが表示され、PV発電電力が表示されます。
電力値が「0.0kW」の場合は、電力表示及び矢印アニメーションは表示されません。
太陽光発電システム「未接続」の場合は、ホーム画面の家の屋根のPVパネルが非表示になります。

お手入れと点検

製品を長く安全にお使いいただくため定期的なお手入れをおすすめします。

警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
分解禁止	**お客様ご自身での分解点検は行わない** 感電するおそれがあります。
指示に従い必ず行う	**お手入れの際は必ずEV用パワーコンディショナ本体の「充放電停止」スイッチを押して運転を停止し、保守用ブレーカ、太陽光発電用ブレーカを「ＯＦＦ」にして、車両からコネクタをはずす** 感電･火災の原因になります。

注意	誤った取扱いをしたときに軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
禁止	**EV用パワーコンディショナ、充電ケーブル、コネクタ、リモコンの清掃には以下の薬品や油類・洗剤等を使用しない** **シンナー・アルコール・ベンジン・ガソリン・灯油・スプレー・洗剤等** 故障や変色･変質の原因になります。
水ぬれ禁止	**EV用パワーコンディショナを水につけたり、水をかけたりしない** 感電や故障の原因になります。
	EV用パワーコンディショナを高圧洗浄機で洗浄しない 感電や故障の原因になります。
接触禁止	**運転中や停止直後にEV用パワーコンディショナの上面付近、通気口付近をさわらない** 高温のためやけどをするおそれがあります。
指示に従い必ず行う	**地震、大雪後の点検を受ける** アンカーボルトの固定にゆるみや異常があるとEV用パワーコンディショナが転倒してけがをする場合があります。また、電気配線に異常がある場合は、火災･感電･故障の原因になります。
	EV用パワーコンディショナをから拭きするときは手袋を着用する 着用しないとけがをすることがあります。
	コネクタに直射日光が当たっている時に、コネクタを操作する場合は手袋を着用する やけどの原因になります。

※お手入れ時に住宅内の家電機器をご使用の場合は、切替開閉器を、系統電力側に切替えてください。（P7 参照。）

お手入れと点検　つづき

EV 用パワーコンディショナのお手入れ

●本体が汚れた場合は、乾いた布などでふいてください。
●雪が積もった場合は、吸気取り入れ口が埋まらないように除雪してください。

定期的なお手入れ

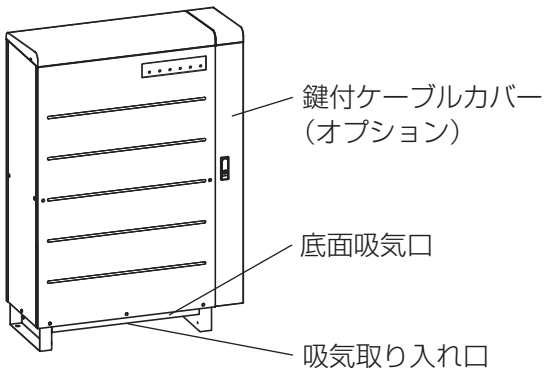
月に１回程度

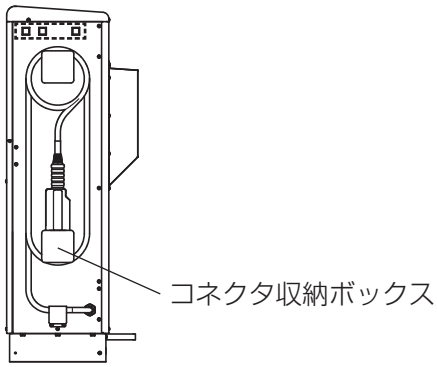
・コネクタ収納ボックス内のゴミを取る。
・鍵付ケーブルカバー（オプション）の内側に貯まったゴミ、埃を取る。
・吸気口の周りの設置面を掃除する。

年に１回程度

・底面の吸気口にほうきなどを入れてゴミをはらう。

お手入れ後は、保守用ブレーカ、太陽光発電用ブレーカを「ON」にし、切替開閉器を EV 用パワーコンディショナ側に切替えてください。





リモコンのお手入れ

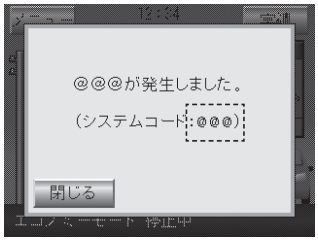
リモコンの表面の汚れは、水またはぬるま湯（40℃以下）に浸した布をかたくしぼってふき取り、拭いた後は水分が残らないよう乾いた布でよくふき取る。水分が多量に残った布で拭くと製品内部に水が浸入するおそれがあり、故障の原因になりますので、必ずかたくしぼった布で拭く。
上記以外の清掃方法や下記の例にあげた溶剤を使用すると、製品表面の変質・変色の原因になります。

■清掃でご使用になれない溶剤の例
シンナー・アルコール・ベンジン・ガソリン・灯油・スプレー・アルカリ洗剤・中性洗剤・研磨剤・その他

点　検

電気事業法では「システムの保安の確保のため、システム保持義務」をお客様に求めております。当社では、ＥＶ用パワーコンディショナを長年安全にご使用いただくために、定期点検をおすすめしています。費用などの詳細についてはお買上げの販売店にご相談ください。

■日常点検
● EV 用パワーコンディショナ
本体、充電ケーブル、コネクタに破損は無いか、故障ランプが点灯してないか確認ください。
●リモコン
各電力の表示が正常か、エラー発生の画面が表示されてないか確認ください。



□内の数字は異常の内容により変化します。
システムコードをメモに控えた後、「閉じる」ボタンを押してポップアップ画面を閉じてください。
「故障かな？と思ったら」（P60）を参照し、それでも解決しない場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■定期点検
当社では定期点検制度を設けています。お買上げの販売店に一度お申し込みいただくと定期点検（有料）を実施いたします。

ＥＶ用パワーコンディショナの保証について

●保証書は内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
保証期間・・・保証書に定める保証期間（1 年）によります

バッテリ（鉛蓄電池）の交換

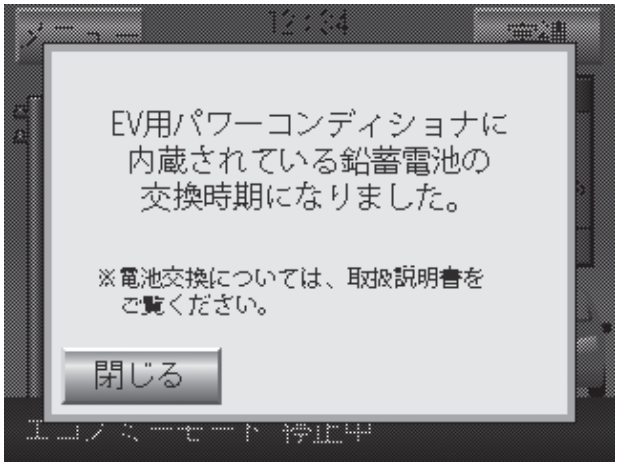
バッテリ（鉛蓄電池）の保守・点検上の注意

バッテリ（鉛蓄電池）の定期交換の必要性

ＥＶ用パワーコンディショナには、停電時のバックアップ用電源として鉛蓄電池を搭載しています。鉛蓄電池は年数とともに容量が低下するため定期的（3.5 年ごと）に交換する必要があります。
鉛蓄電池を交換せずに長期間製品を使い続けますと、自立運転が開始できなくなるおそれがあります。また、蓄電池が劣化した状態で長期間使用しますと液漏れなどによる火災の原因となることがありますので、必ず定期的に交換を実施してください。

⚠注意

バッテリ(鉛蓄電池)は定期的(3.5年ごと)に交換する。劣化した蓄電池を長期間使用しますと、漏液等による火災の原因になることがあります。



鉛蓄電池の交換時期が近付くとリモコンの表示画面に左図に示すようなお知らせ画面が表示されます。
この表示がされた場合は早めに鉛蓄電池を交換してください。

リモコンに鉛蓄電池交換のお知らせが表示された場合は、販売店または修理窓口（P59）までお問合せください。

バッテリ（鉛蓄電池）のリサイクル

・この製品のバッテリには、鉛蓄電池を使用しております。鉛蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。蓄電池の交換および使用済み製品の廃棄に際しては、鉛蓄電池のリサイクルにご協力ください。
・鉛蓄電池は地方自治体により、その対処方法が異なりますので、各々の地方自治体に確認してください。
　または、最寄りの販売店または修理窓口（P59）までご連絡ください。

鉛蓄電池はリサイクルへ
鉛蓄電池の総質量(7.6kg)

Pb　三菱電機株式会社

地震発生時の注意

地震により停電が発生した場合は、リモコンの操作で自立運転を行うことができますが、主幹漏電ブレーカ、ホーム分電盤内の漏電ブレーカのどちらか１個でもＯＦＦ（トリップ動作）していた場合は、漏電または短絡故障している可能性がありますので、ＥＶ用パワーコンディショナの自立運転は行わないでください。

⚠注意

地震後、漏電ブレーカがOFF（トリップ）した場合は、自立運転を行わない。短絡や漏電が起こり火災の原因になります。

地震により停電が発生した場合は、主幹漏電ブレーカ、ホーム分電盤内の漏電ブレーカの両方ともＯＦＦ（トリップ動作）になっていないことを確認してから自立運転を行ってください。なお、電気ストーブ、アイロン、ドライヤーなどの電熱器具は、プラグをコンセントから抜き、使用しないでください。

保証とアフターサービス

■保証書（別添付）

- 保証書は、必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保証期間

保証書に定める保証期間（1年）によります。

■補修用性能部品の保有期間

- 当社は、このEV用パワーコンディショナの補修用性能部品を製造打切り後11年としています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

- お買上げの販売店か下記の「三菱電機 ご相談窓口・修理窓口」にご相談ください。

■修理を依頼されるときは

- **「故障かな?と思ったら」**（60ページ）にしたがってお調べください。
- なお、不具合があるときは、保守用遮断器を切り、切替開閉器を系統電力側に切替え、また、太陽光発電を使用時は切替開閉器をホーム分電盤側に切替え、お買上げの販売店にご連絡ください。

●保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。
保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。

●保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
点検・診断のみでも有料となることがあります。

●修理料金は

技術料+部品代(+出張料)などで構成されています。

- 技術料…故障した製品を正常に修復するための料金です。
- 部品代…修理に使用した部品代金です。
- 出張料…製品のある場所へ技術員を派遣する料金です。

●ご連絡いただきたい内容

1. 品　　名　EV用パワーコンディショナ
2. 形　　名
3. お買上げ日　　年　　月　　日
4. 故障の状況　(できるだけ具体的に)
5. ご　住　所　(付近の目印なども)
6. お名前・電話番号・訪問希望日

■この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。
また、アフターサービスもできません。

ご相談窓口・修理窓口のご案内（太陽光発電システム）

取扱い・修理のご相談は、まず
お買上げの販売店・施工者・設備業者へ

●お買上げの販売店にご依頼できない場合（転居や贈答品など）は、各窓口へお問い合わせください。

■お問合せ窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

三菱電機株式会社は、お客様からご提供いただきました個人情報は、下記のとおり、お取り扱いします。

1. お問合わせ（ご依頼）いただいた修理・保守・工事および製品のお取り扱いに関連してお客様よりご提供いただいた個人情報は、本目的ならびに製品品質・サービス品質の改善、製品情報のお知らせに利用します。
2. 上記利用目的のために、お問合わせ（ご依頼）内容の記録を残すことがあります。
3. あらかじめお客様からご了解をいただいている場合および下記の場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
   ①上記利用目的のために、弊社グループ会社・協力会社などに業務委託する場合。
   ②法令等の定める規定に基づく場合。
4. 個人情報に関するご相談は、お問合せをいただきました窓口にご連絡ください。

ご相談窓口　太陽光発電システムの取扱い方法・修理の問合せ

●三菱太陽光発電技術相談センター

フリーダイヤル
0120-314-382（無料）
ミツビシ　サン ハツデン
携帯電話・PHS・IP電話対応

■ご相談対応　平日（土・日・祝及び弊社休日以外）
9：00～12：00
13：00～17：00

三菱電機株式会社 中津川製作所
〒508-8666　岐阜県中津川市駒場町1番3号
FAX (0573) 66-5659（有料）

修理窓口　太陽光発電システムの修理の依頼

受付時間365日24時間

●三菱電機修理受付センター

フリーダイヤル
0120-56-8634（無料）

インターネット
www.melsc.co.jp

携帯電話サイト
空メールの送り先：**fc8634@melsc.jp**
またはバーコードからアクセス。
URLをメール返信します。

携帯電話・PHS・IP電話の場合		
北海道・東北 関東甲信越	東日本 修理受付センター FAX (03) 3424-1115（有料）	(03) 3424-1111（有料）
東海・北陸・関西 中国・四国・九州	西日本 修理受付センター FAX (06) 6454-3900（有料）	(06) 6454-3901（有料）

●所在地、電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承願います。
●電話番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

S13A-PV

故障かな？と思ったら

現象	原因	処置方法
充電ができない。	主幹漏電ブレーカが「ＯＦＦ」している。	主幹漏電ブレーカを「ＯＮ」にします。
	ＥＶの急速充電口にコネクタが接続されていない。	ＥＶの急速充電口にコネクタを接続します。
充電はできるが放電（住宅内負荷への給電）ができない。	ＥＶがＶ２Ｈ対応になっていないと充電しかできません。	ＥＶを購入された販売店にＶ２Ｈ対応になっているか確認してください。
充電に時間がかかる。（充電電力が定格充電電力より少ない）	契約電力を超えないように充電電力を制御しているため、契約電力が少なかったり、使用する負荷が多い時は充電電力が少なくなります。	製品異常ではありません。 使用している負荷の電源を切り、消費する電力を少なくしてください。
	直射日光が当たっていませんか。EV 用パワーコンディショナ内部の温度が上昇し、出力を制限している可能性があります。	直射日光が当たらないようにひさしを設けてください。
製品内部から「カチッ」と音がする。	運転開始／停止時に回路を切替える動作音です。「カチカチ」と音が連続することがあります。	製品異常ではありません。
製品から「ブーン」という風切音がする。	EV 用パワーコンディショナの温度上昇を防ぐため、冷却ファンによる風切音です。	製品異常ではありません。
ラジオやテレビなどに電波障害がでる。	ラジオやテレビなどがEV用パワーコンディショナに近すぎる。	ラジオやテレビを影響の少なくなる場所へ移動してください。パワーコンディショナの据付位置を変更する場合はお買上げの販売店にご相談ください。
自立運転モードで装置が停止する。	総負荷容量が給電可能容量（６ｋＷ）を超えている。 片相のみに５ｋW以上の負荷が接続されている。	製品異常ではありません。 使用する負荷を減らしてください。
	突入電流の大きい負荷が接続されると EV 用パワーコンディショナ内の保護機能が動作することがあります。	突入電流の大きい負荷のご使用をひかえてください。
自立運転モードで電球がちらつく。	白熱電球などはちらつくことがあります。	製品異常ではありません。
負荷を全く使用していない時に、リモコンの買電に数値が表示される。	EV 用パワーコンディショナから系統への逆潮流を防止するための制御により、買電に 0.1kW または 0.2kW が表示されます。	製品異常ではありません。
住宅内負荷への給電が十分でない。	総負荷容量が車両の給電可能容量を超えている	製品異常ではありません。 使用する負荷を減らすか、車両を充電してから再度運転してください。
	直射日光が当たっていませんか。 EV 用パワーコンディショナ内部の温度が上昇し、出力を制限している可能性があります。	直射日光が当たらないようにひさしを設けてください。
リモコンのタッチパネル画面にノイズが見える。	画面切り替えのときに、画面にノイズが見える場合があります。	製品異常ではありません。
リモコンのタッチパネル画面がちらつく。	リモコンのタッチパネル画面がちらついて見える場合があります。	製品異常ではありません。

現象	原因	処置方法
コネクタのロックが解除できない。	充電、放電している。	ＥＶ用パワーコンディショナ本体の「充放電停止」ボタン、またはリモコンの「運転／停止」ボタンで停止してください。
	停止してもコネクタに電圧が印加されている。	エラー停止状態の解除（P65）を実施してもロックが解除されない場合は、最寄のサービスセンターまでご連絡ください。
電力系統が停電していないのに、住宅内が停電状態を継続する。	ＥＶ用パワーコンディショナ内部の開閉器が故障している。	切替開閉器で電力系統とホーム分電盤をバイパスして、最寄のサービスセンターまでご連絡ください。
電力系統が復電しても充電、放電ができない。	系統連系の規定により、復電後はすぐに系統連系しない。	復電から約５分以内に運転を再開します。しばらくお待ちください。
自立運転でＰＶ用パワーコンディショナが停止する。	ＰＶ用パワーコンディショナの発電電力がＥＶ用パワーコンディショナの充電可能な電力を超過した。 （エラーで停止しないためＰＶ用パワーコンディショナを切り離す）	約 15 分以内にＰＶ用パワーコンディショナが運転を再開します。しばらくお待ちください。
	ＥＶ電池残量が上昇した。 （過充電防止のためＰＶ用パワーコンディショナを切り離す）	ＥＶ電池残量が約 5% 低下するまで放電すると、約５分以内にＰＶ用パワーコンディショナが自動的に運転を再開します。しばらくお待ちください。
	自立運転時は、ＰＶ用パワーコンディショナの保護機能が動作することがあります。	約５分以内にＰＶ用パワーコンディショナが自動的に運転を再開します。しばらくお待ちください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示される。 「ＬＡＮの接続を確認してください。」 （システムコード：1）	ＬＡＮを使用しないのに「ＬＡＮ接続」を「有効」に設定している。	「ＬＡＮ接続」を「無効」に設定してください（P20）。
	ＬＡＮ通信機器の設定や接続に問題がある。	ＬＡＮ通信機器の設定や接続を確認してください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電、放電ができない。 「内蔵の鉛蓄電池の電圧が低下しています。充電するため系統に接続して下さい。」 （システムコード：10）	ＥＶ用パワーコンディショナ内部の蓄電池が充電不足になっている。	電力系統と接続するとＥＶ用パワーコンディショナ内部の蓄電池が自動的に充電されます。エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。
	ＥＶ用パワーコンディショナ本体または内部の蓄電池に異常がある。	電力系統と接続して約６時間以上経過してもエラー停止状態が解除できない場合は、最寄のサービスセンターまでご連絡ください。
充電、放電ができない。 （システムコード：13、14、18、102、104、182、185）	ＥＶ用パワーコンディショナ内部の温度が上昇している。	約 10 分後に自動的に運転を再開します。自動的に運転を再開しない場合は、エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示される。 「冷却ファンが異常です。」 （システムコード：51） 「冷却ファン（内部）が異常です。」 （システムコード：127）	ＥＶ用パワーコンディショナ内部のファンが故障している。	ＥＶ用パワーコンディショナ内部の温度が上昇するため、最寄のサービスセンターまでご連絡ください。

故障かな？と思ったら　つづき

現象	原因	処置方法
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて放電ができない。 「放電未対応のＥＶのため給電動作を実行できませんでした。」 （システムコード：52）	ＥＶの設定で放電が禁止されている。	ＥＶの設定を確認してください。
	ＥＶがＶ２Ｈ対応になっていないと充電しかできません。	ＥＶを購入された販売店にＶ２Ｈ対応になっているか確認してください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電ができない。 「ＥＶの蓄電池容量が上限に達しました。」(※1) （システムコード：54）	ＥＶ電池残量の上限まで充電して“ＥＶ満充電”になった。（P29参照）	ＥＶ電池残量が約 5% 低下するまで放電してください。
		コネクタをＥＶに接続しなおすか、エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。
	買電最小運転（グリーンモードの場合は「給電時間」動作時）でＥＶ電池残量が上昇して充電が禁止された状態を継続した。 （ＥＶ用パワーコンディショナ本体の消費電力削減のため一時停止）	買電／売電電力が買電になると、約 10 分後に自動的に運転を再開します。しばらくお待ちください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて放電ができない。 「ＥＶの蓄電池容量が下限に達しました。」(※1) （システムコード：55）	ＥＶ電池残量の下限まで放電して“ＥＶ不足充電”になった。（P29参照）	ＥＶ電池残量が約 5% 上昇するまで充電してください。
		コネクタをＥＶに接続しなおすか、エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。
	買電最小運転（グリーンモードの場合は「給電時間」動作時）でＥＶ電池残量が低下して放電が禁止された状態を継続した。 （ＥＶ用パワーコンディショナ本体の消費電力削減のため一時停止）	買電／売電電力が売電になると、約 10 分後に自動的に運転を再開します。しばらくお待ちください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示される。 「EV 充電制限動作中です。」 （システムコード：56）	ＥＶ電池残量が上昇した場合など、ＥＶからの指示で充電電力が制限されている。	製品異常ではありません。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示される。 「EV 放電制限動作中です。」 （システムコード：57）	ＥＶ電池残量が低下した場合など、ＥＶからの指示で放電電力が制限されている。	製品異常ではありません。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電、放電ができない。 「車両シフト位置がパーキング以外です。車両シフト位置を確認してください。」 （システムコード：58）	ＥＶのシフト位置がパーキング以外になっている。	ＥＶのシフト位置を確認した後、コネクタをＥＶに接続しなおして運転を再開してください。

（※ 1）通常運転（エコノミーモード、グリーンモード、ＥＶ予約充電モード）の場合、メッセージは表示されません。

現象	原因	処置方法
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電、放電ができない。「車両との通信を確立しています。ＥＶを接続したままお待ちください。※当状態が継続する場合はＥＶとの接続を確認してください。」（システムコード：72）	コネクタがＥＶに接続されていない。	コネクタをＥＶに接続してください。
	ＥＶが応答しない。	約１分後に自動的に運転を再開します。自動的に運転を再開しない場合は、コネクタをＥＶに接続しなおすか、エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。
	ＥＶのバッテリ（鉛蓄電池）の電圧が低下している。	ＥＶのバッテリ（鉛蓄電池）を充電または交換してください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電、放電ができない。「コネクタロックに失敗しました。ＥＶ充放電ケーブルを取り外す場合はご注意ください。」（システムコード：75）	コネクタが正しく差し込まれていない。	コネクタの差し込みを確実に実施してください。
	コネクタのロック機能に異常がある。	最寄のサービスセンターまでご連絡ください。コネクタをＥＶから外す場合は、感電の恐れがありますので、停止したことを確認してから外してください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電、放電ができない。「車両インレット端に電圧が出ている可能性があります。ＥＶ充放電ケーブルは抜かないでください。」（システムコード：119）	停止してもコネクタに電圧が印加されている。	エラー停止状態の解除（P65）を実施してもコネクタのロックが解除されない場合は、最寄のサービスセンターまでご連絡ください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電、放電ができない。「ＥＶが起動しないため運転ができませんでした。」（システムコード：125）	ＥＶが応答しない。	コネクタをＥＶに接続しなおすか、エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電ができない。「充電電力が低下したため運転を停止しました。」（システムコード：126）	ＥＶの充電電力が低下した。	買電電力が少なくなると約 10 分後に自動的に運転を再開します。自動的に運転を再開しない場合は、コネクタをＥＶに接続しなおすか、エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて充電ができない。「最大充電時間を超過したため運転を停止しました。」（システムコード：123）	Ｖ２Ｈ非対応のＥＶに充電しているときに、ＥＶが許容する最大充電時間を超過した。	約５秒後に自動的に運転を再開します。自動的に運転を再開しない場合は、コネクタをＥＶに接続しなおすか、エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。

故障かな？と思ったら　つづき

現象	原因	処置方法
リモコンの画面に以下のメッセージが表示される。「温度が上昇しているため出力を制限しています。」（システムコード：151）	ＥＶパワーコンディショナ内部の温度が上昇して充電、放電電力が制限されている。	製品異常ではありません。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示される。「系統電圧が上昇しているため出力を制限しています。」（システムコード：152）	電力系統の電圧が上昇して放電電力が制限されている。	製品異常ではありません。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示される。「電力が出力可能範囲を超過しています。電力を減らしてください。」（システムコード：122）	自立運転で宅内負荷の消費電力が給電可能な電力を超過している。	自立運転が停止して停電する恐れがあります。宅内負荷の消費電力を減らしてください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて自立運転できない。「電力が出力可能範囲を超過しました。電力を減らして運転を開始してください。」（システムコード：155、156）	自立運転で宅内負荷の消費電力が給電可能な電力を超過した。	宅内負荷の消費電力を減らして運転を再開してください。
リモコンの画面に以下のメッセージが表示されて自立運転できない。「電力が出力可能範囲を超過しました。電力を調整して運転を開始してください。」（システムコード：173）	自立運転で宅内負荷が片相 100V に集中して、宅内負荷の消費電力が給電可能な電力を超過した。	宅内負荷の消費電力を減らしてください。約３分後に自動的に運転を再開します。自動的に運転を再開しない場合は、エラー停止状態の解除（P65）を実施して運転を再開してください。
ＥＶ用パワーコンディショナ本体の充電開始ボタンやリモコンの割り込み運転で運転モードを設定しても。運転状態が変化しない。	エラーが発生して一時停止している。	約３分後に自動的に運転を再開します。自動的に運転を再開しない場合は、エラー停止状態の解除（P65）を実施してください。
	条件によっては、特定の運転モードを受け付けず、前回の運転モードを継続する。（例："ＥＶ満充電"で売電最大運転中にＥＶ充電運転を設定しても売電最大運転を継続する）	製品異常ではありません。停止したい場合は、ＥＶ用パワーコンディショナ本体の充放電停止ボタンまたはリモコンの運転／停止ボタンで停止してください。
リモコンのホーム画面のシステム状態表示に「非常停止中」と表示される。	ＥＶ用パワーコンディショナ本体の非常停止ボタンを押した。	充放電停止ボタンを長押し（約５秒間）して解除してください。
	重大なエラーが発生した。	エラー停止状態の解除（P65）を実施しても非常停止中を継続する場合は、最寄のサービスセンターまでご連絡ください。
	自動的に運転を再開するエラーが続けて複数回発生した。	エラー停止状態の解除（P65）を実施しても非常停止中を継続する場合は、最寄のサービスセンターまでご連絡ください。

■エラー停止状態の解除

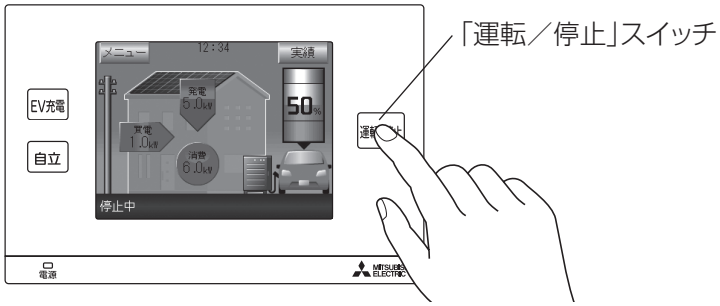
車両の状態により、エラーが発生する場合があります。その場合、下記要領にて EV 用パワーコンディショナを再起動してください。

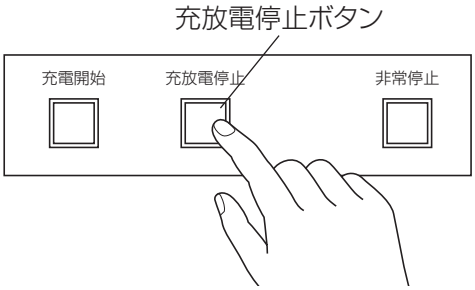
●解除方法

①解除する前に、リモコンの画面にシステムコードが表示されているときは、必ず、システムコードをメモに控えた後、「閉じる」ボタンを押してポップアップ画面を閉じてください。（P56 参照）

本作業を行わないで解除すると、システムコードが得られません。

②次にリモコンの「運転 / 停止」スイッチを 10 秒以上押し続けるか、EV 用パワーコンディショナ本体の「充放電停止」スイッチを 5 秒以上押し続けることで EV 用パワーコンディショナを再起動することができます。





お願い

ＥＶ用パワーコンディショナから、発煙、発火、異臭、異音がする場合は、再起動操作をせず、お買上げの販売店まで連絡してください。

上記の処置をしても直らないとき

①パワーコンディショナ本体の「充放電停止」または「非常停止」スイッチを押すか、リモコンの「運転／停止」スイッチを押してＥＶ用パワーコンディショナの運転を停止させてください。（P11 参照）

②車両からコネクタを取りはずしてＥＶ用パワーコンディショナに収納してください。

③お買上げの販売店に症状、システムコードを連絡し修理をご依頼ください。

※発生している事象により、車両からコネクタを取り外せない場合があります。コネクタを取り外せない場合は、「充放電停止」または「非常停止」スイッチを押すか、リモコンの「運転 / 停止」スイッチを押して EV 用パワーコンディショナの運転を停止させた後、コネクタをそのままにしてお買上げの販売店にご連絡ください。無理にコネクタを取り外そうとすると、感電などの恐れがありますので、ご注意ください。

製品仕様

商　品　名		EV 用パワーコンディショナ
形　名		EVP-SS60A-M5、EVP-SS60A-M7 EVP-SS60A-Y5、EVP-SS60A-Y7
設置場所		屋外（ビルトイン駐車場を含む）※1
保護等級		IP45※2
使用温度範囲		-10 ～ 40℃
EV 側定格電圧		DC380V
EV 側最大電流		DC25A※7
EV 側電圧範囲		DC150 ～ 450V
AC 側定格電圧、周波数（連系運転時）		AC202V、50/60Hz
AC 側定格電圧、周波数（自立運転時）		AC202 ／ 101V、50/60Hz
AC 側定格電力 (連系運転時)		6.0kW
AC 側定格電力（自立運転時）		6.0kVA（片相 100V 集中負荷時：5.0kVA）
電力変換効率		90%※3
出力基本波力率		0.95 以上
高調波電流歪み率		総合５%以下、各次３%以下
運転時騒音		45dB※4
主回路方式	変換方式	電圧型電流制御方式
	スイッチング方式	正弦波 PWM 方式
	絶縁方式	高周波絶縁トランス方式
	電気方式（連系運転時）	単相２線式（単相３線式配電線に接続）
	電気方式（自立運転時）	単相３線式
保護機能	連系保護	ＯＶ、ＵＶ、ＯＦ、ＵＦ
	単独運転検出方式	受動的方式、能動的方式
質　量		155kg※5
外形寸法（W×D×H）		841 × 450 × 1218 mm※6

※１：本商品の設置条件は、周囲温度 -10 ～ 40℃の一般地域。重塩害地域、塩害地域およびこれに相当する地域には設置不可。
※２：JIS C 0920 で規程する防塵防水に関する保護等級を示しています。粉塵が内部に侵入することを防止し、いかなる方向からの水の直接噴流によっても有害な影響を受けない防塵・防噴流形であることを示すものであり、故障や破損が一切生じないことを保障するものではありません。
※３：最大効率を示します。
※４：JIS C 1509-1 で規程するＡ特性サウンドレベルを示します。製品外郭より１m、高さ１mでの測定値です。運転音は反響の少ない無響音室で測定した数値です。実際に設置した状態で測定すると周囲の音や反響を受け、表示の数値より大きくなることがあります。
※５：充電ケーブル 5.5m 仕様の場合。
※６：本体背面突起物、取付足部を含む。鍵付ケーブルカバーを含まず。
※７：V2H 非対応のＥＶと接続する場合は DC12A。

■リモコン

設置場所	屋内
使用温度範囲	0～40℃
外形寸法（W×D×H）	１８０×３０×１２０mm
電源	ＤＣ９Ｖ（ＥＶ用パワーコンディショナより供給）
画面	５インチカラー液晶　３２０×２４０ドット
質量	３８０ｇ

※本リモコンはＥＶ用パワーコンディショナ専用品です。説明書に記載されていない機能については使用できません。
※本リモコン下部にスロットキャップがありますが、本製品ではご使用いただけませんので、開けないでください。

三菱電機株式会社
京都製作所　〒617−8550 京都府長岡京市馬場図所1番地